

選択的評価事項に係る評価

自己評価書

平成19年6月

豊田工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	選択的評価事項A 研究活動の状況	4
IV	選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況	42

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

豊田工業高等専門学校

(2) 所在地

愛知県豊田市

(3) 学科等構成、学生数及び教員数

(平成19年5月1日現在)

学生数

単位：人

準学士課程	1年	2年	3年	4年	5年	計
機械工学科	45	46	40	52	41	224
電気・電子システム工学科	43	49	46	36	46	220
情報工学科	43	47	36	46	38	210
環境都市工学科	43	44	48	44	34	213
建築学科	43	42	49	42	34	210
計	217	228	219	220	193	1,077

専攻科課程	1年	2年	計
電子機械工学専攻	15	14	29
建設工学専攻	14	13	27
情報科学専攻	8	5	13
計	37	32	69

教員数

単位：人

準学士課程	教授	准教授	講師	助教	助手	計
一般学科	13	9	3			25
機械工学科	4	4	2	1		11
電気・電子システム工学科	5	4	1		1	11
情報工学科	5	4	1		2	12
環境都市工学科	4	5		2		11
建築学科	4	3	1	2		10
計	35	29	8	5	3	80

2 特徴

「学校の沿革」

本校は産業界の強い要望により、中堅技術者の養成を目的とした高等教育機関として、昭和38年4月1日に設置された。設立時の準学士課程（本科）の学科構成は、機械工学科、電気工学科、及び建築学科の3学科であり、入学定員はそれぞれ40名であった。昭和38年愛知県豊田市のトヨタ会館において開校式と第1回入学式を挙行し、トヨタ自工（株）本社工場内の施設を仮校舎、旧豊田市役所を仮学生寮とし、昭和39年愛知県豊田市栄生町の本校舎に移転し、現在に至っている。

この間、昭和43年度には土木工学科（入学定員40名）、昭和62年度には情報工学科（入学定員40名）が増設された。また、平成5年度には土木工学科が環境都市工学科に改組され、平成6年度には電子機械工学専攻、建設工学専攻及び情報科学専攻の3専攻からなる専攻科課程（専攻科）が設置された。平成11年度には電気工学科が電気・電子システム工学科に改称されている。

現在では、5学科・3専攻、学生数1,040名（入学定員）規模の教育・研究機関に発展してきている。

「学校の特徴」

本校では、以下の事項に積極的に取り組み成果をあげている。

1. 国際性の育成

1) 英語教育の活性化

本科第3学年及び専攻科全員がTOEIC団体受験をしている。

2) 海外留学

毎年40名前後の学生を海外に留学生として送り出している。

2. ものづくり教育

各学科でPBLに取り組み、学校見学会、ロボコン、プロコン、デザコン等で成果をあげている。また、夏季休暇中にもものづくりセミナーを実施している。

3. FDへの積極的な取り組み

1) 授業参観

授業参観週間を設定し、保護者による授業の点検評価を実施している。

2) 公開授業

学校全体で公開授業を実施し、教員同士のスキルアップを図っている。

4. 専攻科教育

1) インターンシップ

平成18年度から授業を7月中に終了させ、8・9月の2ヶ月間インターンシップができるようにしている。

2) JABEE認定

平成16年度に「電気・電子システム工学プログラム」、環境都市工学プログラム、平成17年度に「機械工学プログラム」、「情報科学」のプログラム、平成18年度には「建築学プログラム」が認定され5つ全ての専門分野別にJABEE認定されている。

3) 英語教育

TOEICスコア400点相当の能力を保証している。

4) 学会発表

専門学協会等で口頭発表させ、能力があることを保証する。

5. 教員の教育・研究活動等

1) 外部資金獲得

原則全教員が科研費申請をしており、採択件数も年々増えている等、外部資金獲得に努力し成果をあげている。

2) 表彰等

教員研究集会の文部科学大臣賞受賞等多くの教員が学協会等で表彰を受けている。

3) 地域社会への貢献

公開講座及び出前授業を実施している。

II 目的

1 豊田工業高等専門学校の使命

教育基本法 の精神にのっとり、及び学校教育法に基づき、「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成すること」を昭和38年の創設時に学校の目的と定めている。また、平成6年には専攻科の目的を「高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し、その研究を指導すること」と定めている。

2 教育研究活動の基本方針および養成しようとする人材像

本校の社会的使命は、実践的で、創造力ある技術者を育てることを通して、人類社会の福祉増進に貢献することである。本校で行う教育の特徴は、豊富な体験学習を基礎に、若年期からの創造性の育成、専門分野に関する基本的知識、実践的技術の習得を中心として、技術の社会的責任を認識しつつ、広い視野を持って、創造的に技術開発に挑戦し続け得る技術者を養成することである。

3 教育目標（本科・専攻科共通教育目標）

- ① 社会の変化と要請を的確に捉え、ものづくりを多面的に認識し、実現可能なシステムを構築できる技術者の養成
- ② 実験・実習で培われる豊かな体験と基礎理論の深い理解との融合から生まれるエンジニアリング基盤の確立
- ③ 問題意識と考える力を持ち、自ら学習することによる創造力と実践力を備えた技術者の養成
- ④ 科学的な分析に基づく論理的な記述力、明解な口頭発表能力、十分な討議能力、および国際的に通用するコミュニケーション能力の修得
- ⑤ 世界の文化・歴史の中で、技術が社会に与える影響を考え、自らの責任を自覚し誇りを持つことのできる技術者の育成

4 準学士課程における具体的達成度目標

本科教養教育

人間として、技術者として必要な教養並びに工学基礎学力の修得、外国語能力、情報リテラシーの修得、心身共に健全な人格形成のための教育を中心とする。さらに、専門技術への導入教育、ものづくりへの関心を高めるための教育的工夫を行う。

本科専門教育

本科にあっては、教育目標並びに自らの専門技術分野についての基礎的知見を身に付け、経験に裏打ちされた実践的かつ創造的技術者(準学士(工学))を養成する。

a) 機械工学科

技術者教育に求められる社会的要請に対して、環境を考慮し、資源の無駄を無くし、エネルギーや作業の効率化を念頭に置いた「ものづくり」を中心に据えた教育を行う。また、少人数教育である実験・実習に多くの時間を充たし、工学基礎理論の理解を助け、「ものづくり」の精神を肌で感じさせて、洞察力、実践力、問題解決能力の素養を身につけた機械技術者の育成をする。

b) 電気・電子システム工学科

社会における技術者の役割を意識し、現象の観察・体験を出発点として学習することにより、電気・電子回路、電気磁気学の基礎的内容を修得し、電気エネルギーの運用（発生、輸送、変換）に関する原理、エレクトロニクスの基礎、コンピュータによる情報・通信（情報の保持・変換・伝達）の概念を理解している技術者を養成する。

c) 情報工学科

社会の変化に対応できる高度で知性と創造性の豊かな情報処理技術者を育成することを目標にしている。

具体的には、ハードウェアに関連するコンピュータシステムとソフトウェアに関連するプログラミング言語やシステムプログラムの知識を利用したものづくりによるシステムを構築できるコンピュータ技術者を養成する。

d) 環境都市工学科

人間が活動する社会と自然との関わりの中で、持続可能で快適な人間の活動空間を創造する技術を教育することを基本理念とし、地球規模での環境問題を認識しつつ、人間の生活を支えるより良い道路、鉄道、上下水道等の社会基盤施設の建設・維持管理に必要な基礎知識と実践的技術を身に付けた技術者を育成する。

e) 建築学科

社会と技術との関わりを種々の側面から教授し、ものづくりのプロセスとの関わりで、表現力・応用力・実践能力が身に付いた建築技術者を育成する。

5 専攻科課程における具体的達成度目標

専攻科教育に関する具体的達成度目標

専攻科にあつては、専門分野の高度な技術能力に加え、より深い教養、より広い工学基礎知識を身に付ける。その上で技術者倫理を備えた技術開発能力、あるいは将来研究開発型の技術者を目指し得る能力を持つ者(学士(工学))を育て、技術開発と研究開発に意欲のある学生を養成する。

a) 電子機械工学専攻

本科で身に付けた基本的能力に加え、社会における技術者の役割と責任を理解するとともに、実験、開発の背景を自ら調査・整理し、技術的な問題点を明確にした上で目的と方法を設定し、計画的、継続的に研究できる基礎的な研究開発能力を持つ技術者を育成する。

b) 建設工学専攻

人間が安全で快適に暮らせる社会の確立のために本科で学んだ環境都市工学あるいは建築学の知識や技術に加え、都市工学、建築学、計画学、環境工学等の学際的な知識や実践的な技術、さらには、CADを利用したデザイン技術や実験を通じた計測技術を修得させる。

c) 情報科学専攻

本学科生の知識と実践力に加えて、ハードウェアの基本動作を理論面から解析できるとともに、ソフトウェア的手法を利用してハードウェアを設計でき、ソフトウェア開発において、数理的理論に基づくスマートな設計ができるとともに、ハードウェアの基本動作を意識した設計ができ、コンピュータネットワークの動作を通信理論の観点から数理的に解析できる高度な実践的技術者を養成する。

Ⅲ 選択的評価事項A 研究活動の状況

1 選択的評価事項A「研究活動の状況」に係る目的

愛知県は工業出荷額全国一位であり、その中でも突出した「ものづくりの地」である豊田市に本校は位置している。こうした産業的背景のもとで、本校卒業の就職希望者のうち8割程度が製造業や運輸通信業へ就職し、就職先の大半は愛知県内である。活性化の著しい豊田地区にあっても製造業の持続的成長に必要な人材の育成は最重点課題であり、実践的技術者を育成することを使命とする本校が期待される理由でもある。

また、平成16年度からの高等専門学校の独立行政法人化に伴い、独立行政法人国立高等専門学校機構法第12条には「三 機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと」と定められている。こうした観点から実践的および創造的技術者の育成を目的としつつ、地域の企業と連携して研究活動を行うことは、地域貢献の点からも重要な位置付けを占めている。

そこで本校における研究活動の目標として以下の項目を掲げる。

1) 基礎研究と技術シーズの育成

地域企業との共同研究の基盤となる基礎研究や技術シーズの育成に努め、地域企業との共同研究を通じて地域貢献の強化を図る。

2) 技術交流の促進と研究成果の創出

学外の研究者や技術者との交流を促進することによって、学際的な研究や最先端の技術課題に取り組む。また、共同研究を通じて研究成果の創出を図る。

3) 外部研究資金等の導入

地方公共団体や地域企業へ教員の専門分野や技術シーズなどの情報提供を行うとともに、受託研究、共同研究費などの外部資金の導入と科学研究費補助金等の競争的資金の獲得を推進し、地域産業の活性化に貢献するとともに教員の研究活動の活発化を図る。また、これら研究成果を公表することによって社会に成果を還元する。

4) 実践的技術者の育成と研究の教育への還元

共同研究や受託研究などの研究活動に学生を参画させることにより、問題解決能力を備えた実践的で創造性を有する技術者を育成する。また、研究によって得られた教員の知識、技術は特別研究、卒業研究等学生の教育に還元する。

2 選択的評価事項A「研究活動の状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点A-1-①： 高等専門学校の研究の目的に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

高専における研究の位置付けとして、高等専門学校設置基準第2条に「2 高等専門学校は、その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように努力するものとする」と規定されている。本校では、技術の進展に即した技術者教育のポテンシャルを高めるために研究の質の向上を目指し、学位取得者の教員採用(資料A-1-①-1)、教員の内地研究や在外研究への派遣並びに高専間教員交流制度等の利用を通して研究を側面より支援してきた(資料A-1-①-2)。また、準学士課程における卒業研究、専攻科課程の特別研究及び各教員が行う研究並びに企業や自治体との共同研究や受託研究を推進するための体制も整備してきている(資料A-1-①-3)。

こうした研究体制のもとに、以下の4つの研究の目標を掲げている。

1) 基礎研究と技術シーズの育成

平成15年度に、地域共同テクノセンターが開設された。同センターは、センター長を中心に技術教育研究部門、データベース、地域交流、共同研究の各部門が置かれ、さらに各科より1名の室員により運営している(資料A-1-①-4)。また、平成18年度に任用された産学連携・地域連携コーディネーター1名が産学連携推進のために常駐している。地域共同テクノセンターの発足以来、センターの活動は、上記運営委員会と本校技術部の職員が主体であったが、加えてコーディネーターによる経済産業省委託事業等の活動にも力を入れている(資料A-1-①-5)。さらに、庶務課研究協力係を介した地域企業からの技術相談やHPへの情報の公開(資料A-1-①-6)等を通して、地域産業のニーズの把握や本校教員の研究シーズを発信する体制を整えつつある。(資料A-1-①-7)

2) 技術交流の促進と研究成果の創出

大学等の研究者や企業の技術者との交流を支援する体制も整えている。第3回全国高専テクノフォーラムの開催(平成17年度)や岐阜高専テクノシンポジウムへの参加といった交流事業を行うとともに、平成16年度から知的財産権教育支援セミナーの開催(資料A-1-①-8)や特許出願に対する支援を行う体制も整備されつつある(資料A-1-①-9)。

3) 外部研究資金等の導入

共同研究や受託研究の外部資金の導入を推進するために教員の専門分野や技術シーズ等の情報提供を目指し、研究者総覧(資料A-1-①-10)の作成と全国高専研究者データベースの立ち上げ、公開を行っている(これは、本校が作成したものを高専機構へ移管し全国版となっている)。さらに教員の研究の活性化を図るために科学研究費補助金の獲得を目指し、外部講師による科学研究費補助金に関する説明会の開催(資料A-1-①-11)や校長裁量経費による教育・研究プロジェクト経費の公募とその成果報告会を開催している(資料A-1-①-12)。

4) 実践的技術者の育成と研究教育への還元

学生に実社会における研究のあり方を体験させることによる教育効果の向上を目指して、企業や地方自治体と行う共同研究等が、準学士課程の卒業研究や専攻科の特別研究に取り込まれている(資料A-1-①-13)。また、一般科目の教員を含む多数の教員によって教育のIT化や教育方法の改善に関する研究が広く行われており、実際の教育への還元が図られている。こうした教育方

法改善に向けての取り組みには、上記3)の教育・研究プロジェクト経費が活用されている(資料A-1-①-12)。

資料A-1-①-1

教員の学位取得状況(平成19年4月1日現在)

①専門学科(理系)

(准教授高専卒1名・外数)

区分	博士	修士	学士	計
教授	22	0	0	22
准教授	15	4	0	19
講師	2	3	0	5
助教	3	2	0	5
助手	0	3	0	3
合計	42	12	0	54

②一般科目(理系)

区分	博士	修士	学士	計
教授	4	0	0	4
准教授	5	1	0	6
講師	1	0	0	1
助教	0	0	0	0
助手	0	0	0	0
合計	10	1	0	11

理系 博士学位取得率: $52/65=80\%$

②一般科目(文系)

区分	博士	修士	学士	計
教授	0	8	1	9
准教授	2	1	0	3
講師	2	0	0	2
助教	0	0	0	0
助手	0	0	0	0
合計	4	9	1	14

文系 博士・修士学位取得率: $13/14=92.8\%$

(出典 庶務課資料)

資料A-1-①-2

教員の内地研究や在外研究への派遣並びに高専間教員交流実績一覧

在外研究員実績一覧(H16.4～ 海外先進教育研究実践支援プログラムに制度変更)

長期

年度	研究者氏名	研究題目	研究機関	期間
1993	電気工学科 助教授 塚本 武彦	酸化物高温超伝導体に関する研究	スイス ジュネーブ大学	1993.5.21～ 1994.3.20
1994	一般学科 助教授 長岡 美晴	ヘンリー・ジェームズの研究	連合王国 ロンドン大学	1994.6.11～ 1995.3.31
1995	一般学科 助教授 高橋 薫	英語コーパスの文章解析の研究	連合王国 マンチェスター大学	1995.6.1～ 1996.3.31
	環境都市工学科 助教授 伊東 孝	均質化理論を用いた不均質岩石材料の力学特性評価に関する研究	アメリカ合衆国 ミシガン大学	1995.10.1～ 1996.7.31
1996	一般学科 助教授 長澤唯史	現代アメリカ小説に関する研究	アメリカ合衆国 サンディエゴ州立大学	1996.10.1～ 1997.7.31
	情報工学科 講師 安藤浩哉	超伝導ナノブリッジにおける超伝導パラメータに関する研究	ドイツ ユーリッヒ研究センター	1996.11.1～ 1997.8.31
1997	電気工学科 助教授 西澤 一	コンピュータネットワークを用いたリモートセンシングの研究	フィンランド タンペレ工科大学	1997.5.21～ 1998.3.18
2001	電気・電子システム工学科 助教授 杉浦藤虎	光デバイス用半導体材料の特性改善及び技術応用に関する研究	ドイツ ミュンヘン工科大学	2001.5.28～ 2002.3.27
2002	建築学科 助教授 大森峰輝	空間プレゼンテーション技術の評価に関する研究	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学バークレー校	2002.6.1～ 2003.3.31
	機械工学科 助教授 清水利弘	医療用生体材料の疲労特性に関する研究	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学	2003.11.1～ 2004.8.31
2003	一般学科 助教授 鈴木基伸	外国語としての英語教授法の研究	連合王国 レディング大学	2004.3.31～ 2005.1.30

海外先進教育研究実践支援プログラム(H16.4～)

2004	環境都市工学科 助教授 河野伊知郎	各種混和材のコンクリートへの有効利用	アメリカ合衆国 カリフォルニア大学バークレー校	2005.3.10～ 2006.1.9
------	----------------------	--------------------	----------------------------	------------------------

独立行政法人国立高等専門学校機構在外研究員(H17.4～)

2005	電気・電子システム工学科 助教授 吉岡貴芳	創造性教育における体験的学習に埋め込まれたユビキタス学習環境に関する研究	オーストラリア グリフィス大学ゴールドコースト校	2006.3.21～ 2007.3.20
------	--------------------------	--------------------------------------	-----------------------------	-------------------------

国際研究集会派遣研究員(H16.4～ 国際学会等派遣事業に制度変更)

2002	一般学科 助教授 高橋 薫	国際会議 ICAME2002に参加し、発表を行った。	スウェーデン ヨーテボリ	2002.5.21～ 2002.5.28
------	------------------	----------------------------	-----------------	-------------------------

内地研究員実績一覧

年度	研究者氏名	研究題目	研究機関	期間
1993	情報工学科 助手 稲垣 宏	数値的に安定な3次元ポロノイ図構成算法とその応用に関する研究	東京大学 工学部	1993.5.6～ 1994.3.4
1994	情報工学科 助手 安藤浩哉	超伝導磁束フロートランジスタに関する研究	名古屋大学 工学部	1994.5.2～ 1995.3.1
1996	環境都市工学科 助手 榊原幸雄	水深変化による孤立波の碎波変形特性に関する研究	岐阜大学 工学部	1996.5.1～ 1997.2.28
1997	建築学科 助手 鈴木健次	室内温熱環境が人体に及ぼす影響に関する研究	名古屋工業大学 工学部	1997.5.1～ 1998.2.28
1998	建築学科 講師 竹下純治	都市型大学キャンパスの再整備計画に関する研究	名古屋大学 工学部	1998.5.1～ 1996.10.1～
2001	情報工学科 助手 灘 篤弘	情報処理教育における学生モデルの推定に関する研究	名古屋大学大学院 人間情報学研究科	2001.5.1～ 2002.2.28
2004	環境都市工学科 助手 川西直樹	腐食や地震による損傷を受けた鋼構造物の補修情報処理教育における学生モデルの推定に関する研究	名古屋工業大学 工学研究科	2004.5.10～ 2005.3.9

情報処理内地研究員実績一覧

年度	研究者氏名	研究題目	研究機関	期間
1997	情報工学科 助手 木村 勉	ハードウェア/ソフトウェア協調設計における消費電力の見積り方法に関する研究	大阪大学 基礎工学部	1997.5.1～ 1998.2.27

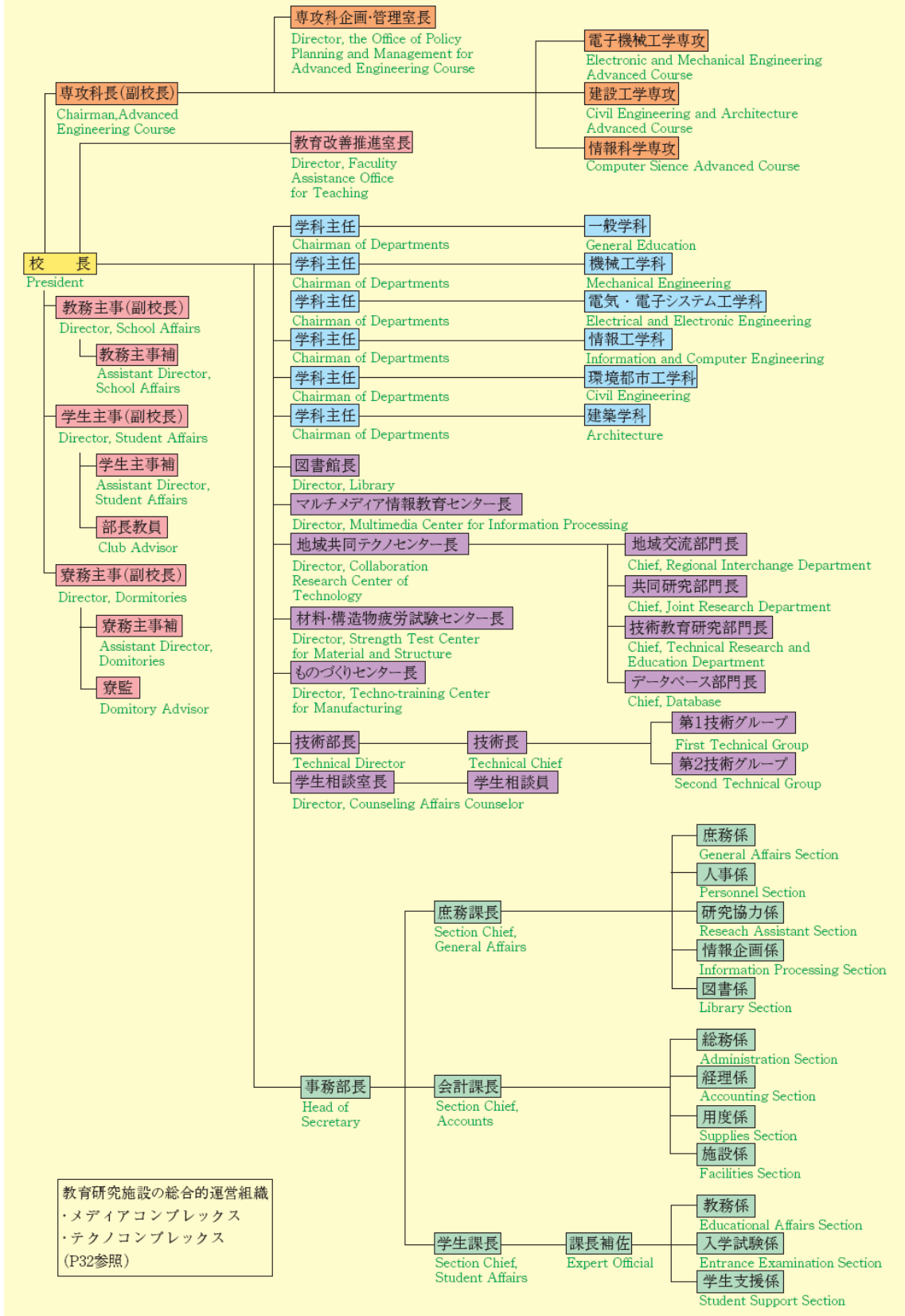
高専間教員交流 (1年間)

派遣 平成18年度 機械工学科 講師 鬼頭俊介 一関工業高等専門学校

受入 平成19年度 情報工学科 准教授 野村保之 福井工業高等専門学校

(出典 庶務課資料)

■ 組織図 Organization Chart



(出典 H19学校要覧 p15)

資料A-1-①-4

平成19年度教員役職一覧表

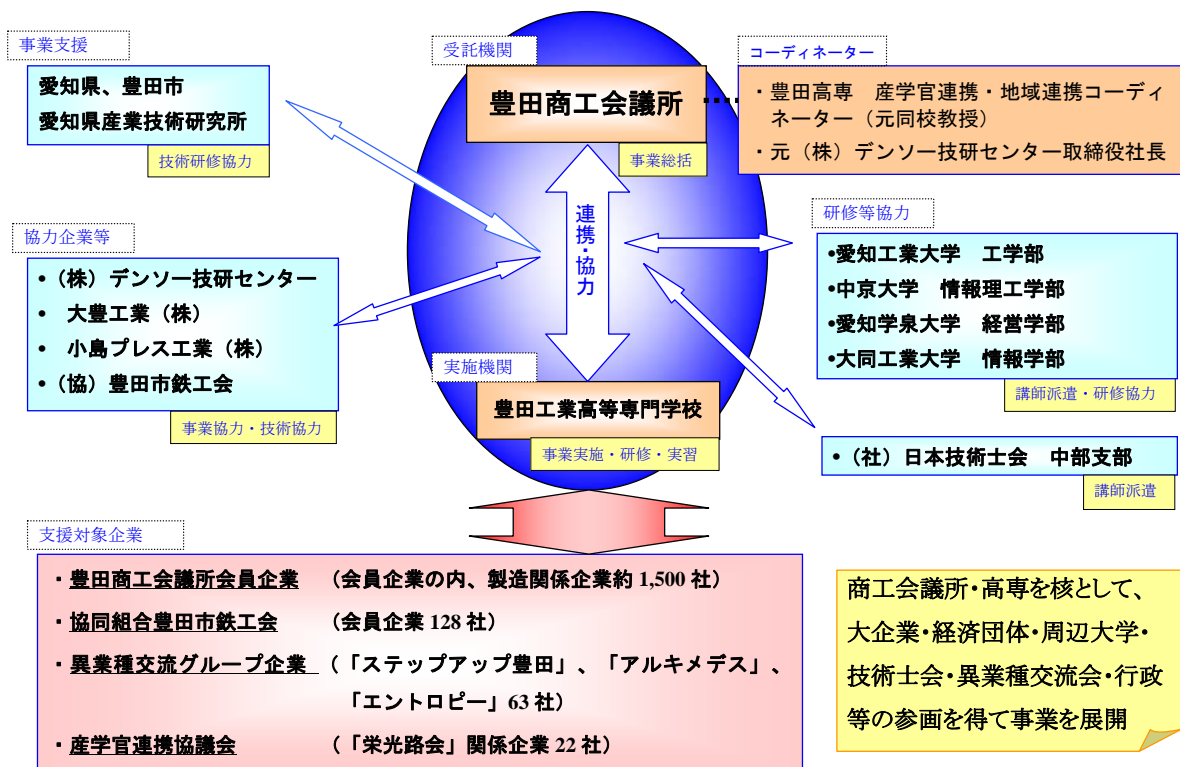
学科等 役職名	一般学科	機械工学科	電気・電子システム工学科	情報工学科	環境都市工学科	建築学科	備考
地域共同テクノセンター長					荻野 弘		
部門長				稲垣 宏 (データベース) 安藤 浩哉 (技術教育研究)	荻野 弘 (地域交流)	今岡 克也 (共同研究)	

平成19年度各種委員会等委員一覧表

学科等 委員会名等	委員長	一般学科	機械工学科	電気・電子システム工学科	情報工学科	環境都市工学科	建築学科	庶務
テクノコンプレックス運営委員会	テクノコンプレ長 三浦 大和		技術部長 ものづくり長	小関 修	専攻科長 稲垣部門長 安藤部門長	中嶋 清実 荻野部門長	材構センター長 今岡部門長	研究協力係長
知的財産委員会	テクノセンター長 柏谷 賢治, 図書館長		中島 正貴	小関 修 マルチセンター長	安藤 浩哉	テクノセンター長	今岡 克也 材構センター長	研究協力係長
地域共同テクノセンター室員	テクノセンター長 三浦 大和		近藤 尚生	塚本 武彦	安藤 浩哉	山下 清吾	鈴木 健次	技術部

(出典 総務会議 (H19.3.27) 資料抜粋)

資料A-1-①-5



(出典 平成18年度経済産業省「高専を活用した中小企業人材育成」委託事業報告書 p1)

豊田高専では、地域社会への貢献のために

産学官連携

最終更新日：2006年
4月6日 13:37:28

各種制度のご案内

テクノコンプレックス

(工事中)



各種制度のご案内

(豊田高専のHPへもどる)

→ [BACK](#)

豊田高専は地域社会の発展に貢献することをめざしております。
本校の教員は学生に対する「教育」という重要な役割をこなしながら、学術の向上のために「研究」も行っており、日常の研究活動の中で得られた研究成果を活用して、企業等との共同研究や技術的な問題に対して相談に応じるなどを行っております。
企業等の皆様には以下のような制度を設けておりますので、ご利用ください。

研究協力制度

豊田高専は地域社会の発展に貢献します

技術的な問題に対して、アドバイスがほしい場合は「技術相談」をご利用ください。
相談内容によっては「共同研究」等でご要望にお応えできる場合もあります。
なお、共同研究等を行うにあたっては、本校の教員の都合（授業等教育活動）もありますので、当該教員とよく相談してください。



← Click 豊田高専と対等の立場で（共通課題を）研究し、その研究成果を報告しあう。

<http://www.toyota-ct.ac.jp/~jimu/syomu/sanngaku/sanngaku-top.htm> (1/3)2007/03/01 15:19:40

豊田高専では、地域社会への貢献のために



← Click 豊田高専に課題を委託し、その研究成果の報告を受ける。



← Click 豊田高専に試験を依頼し、その試験結果（データ）の報告を受ける。



← Click 現場で生じる技術的な問題や疑問等について、アドバイスを受ける。

奨学寄附金制度

豊田高専の教育・研究の発展にご支援をお願いします

本校の運営は、本来、国からの運営費交付金により運営されるものですが、企業や個人篤志家などから寄附金を受入れて、教育の充実・発展や学術研究の発展のために活用し、人材育成や各種研究協力制度によって、広く社会に還元しております。
今後、一層の教育研究の充実・発展のために多くの方からのご支援を期待しております。



← Click 豊田高専における教育の充実・発展、学術研究のための支援をお考えの方へ

参考

各種制度の比較

(出典 ホームページ抜粋)



地域社会との交流のために

全国高専研究者検索システム

全国の高専に所属する研究者の情報をキーワード検索によって調べることができます。

キーワードを入力してください

検索式: [\[検索方法\]](#)

表示件数: 20 要約表示: ON

検索対象

- | | | | | |
|-----------------------------------------|----------------------------------------|-----------------------------|------------------------------|----------------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 北海道 | <input checked="" type="checkbox"/> 東北 | <input type="checkbox"/> 関東 | <input type="checkbox"/> 甲信越 | <input checked="" type="checkbox"/> 東海 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 北陸 | <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 | <input type="checkbox"/> 中国 | <input type="checkbox"/> 四国 | <input checked="" type="checkbox"/> 九州 |

この全文検索システムは [Namazu 2.0.12](#) によって構築されています。
このページに関するお問い合わせは、[高専研究者データベース管理者](#)まで

(出典 全国高専研究者データベース)

知的財産権講演会

教職員各位

地域共同テクノセンター長の橋本です。
知的財産権の講演会を開催しますので、多数ご参加下さい。

第2回 特許講演会
「知的財産権及び特許明細書について」(仮題)

日時：平成16年12月15日(水) 15:00～
講師：暁合同特許事務所 後呂 和男 氏
場所：地域共同テクノセンター2階 技術セミナー室

受講される方には、発明協会発行の
「産業財産権標準テキスト(特許編)」(210ページ)
を配布します。また、
「書いてみよう特許明細書・出してみよう特許出願」(183ページ)
については、冊数があまりありませんので特許申請を考えておられる方
に配布させていただきます。

なお、1月下旬に特許相談会を開催したいと考えています。
相談したい分野、事項等をお知らせ下さい。発明相談会には、できるだけ
関係分野の弁理士をお招きしたいと思います。

今後の予定

第3回「研究成果を特許にするための基礎知識」
日時：平成17年 1月 7日(金) 14:00から
講師：名古屋大学知的財産部長 渡辺 久士 教授
(元トヨタ自動車勤務)
場所：地域共同テクノセンター2階 技術セミナー室

第4回「スーパーTLO事業」(仮題)
日時：平成17年 1月 下旬 (交渉中)
講師：名古屋産業科学研究所 徳永 良邦 氏
場所：地域共同テクノセンター2階 技術セミナー室

第5回 発明相談会
日時：平成17年 1月 下旬 (交渉中)
相談員：名古屋産業科学研究所、暁合同特許事務所
場所：地域共同テクノセンター2階 技術セミナー室

なお、興味のある専攻科学生・本科学生にも参加を呼びかけていただき
たいと思います。

〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1
豊田工業高等専門学校 機械工学科
橋本 正 俊
TEL: (0565) 36-5834, FAX: (0565) 36-5929
E-mail: mhashi@toyota-ct.ac.jp

(出典 知的財産権教育支援セミナー案内メール)

知的財産権取得支援セミナー
知的財産権の基礎知識
(これだけは知っておこう)

日本弁理士会 東海支部
中小企業支援キャラバン隊員
特許業務法人コスモス特許事務所
パートナー弁理士 奥田 誠
Tel:052-218-7161 / Fax:052-218-7166
E-mail:mosan-1@nifty.com

1

1.知的財産権制度
(1)知的財産権のいろいろ

- ①知的創作物(頭の中で考え出した物)についての権利
- ②営業標識(営業活動上の信用)についての権利
- ③その他

2

1.知的財産権制度
(1)知的財産権のいろいろ

- ①知的創作物についての権利：保護対象
 - a) 特許権(Patent)：発明(イデア)
 - b) 実用新案権(Utility Model)：考案(イデア)
 - c) 意匠権(Design Patent)：意匠(デザイン)
 - d) 著作権(Copyright)：著作物(創作的表現)
 - e) 回路配置利用権：半導体チップのマスキング

3

1.知的財産権制度
(1)知的財産権のいろいろ

- ①知的創作物についての権利：保護対象
 - f) 育成者権：植物新品種
ex. 伊コ[®]品種(女峰:716号、とよのか:615号、章姫:2991号、とちおとめ:5248号etc)
 - g) 企業秘密、ノウハウ、営業秘密
ex. 金型製造ノウハウ、接客マニュアル、顧客名簿
 - h) 商品の形態:デッドコピー禁止
ex. たまごっち

4

(出典 知的財産権取得支援セミナー資料抜粋)

特許出願に対する支援体制

高専機構内の手続き(出願まで)

運営者: 庶務課研究協力係
最終更新日:

共同研究	受託研究	受託試験	技術相談	奨学寄附金	競争的 研究資金	科学研究費 補助金	助成金 等情報	教育・研究 プロジェクト	知財手続き	知財お知らせ	生涯学習 (公開講座)
------	------	------	------	-------	-------------	--------------	------------	-----------------	-------	--------	----------------

高専機構内の手続き(出願迄)	特許出願から登録までフロー	重要なお知らせ	知的財産権Q&A
----------------	---------------	---------	----------

法人化後の特許等の知的財産権は、本校の知的財産委員会での審議(特許性、帰属の予備的判断など)を経て、機構(知的財産本部)が承継するか否かを決定します。

機構が承継することとした知的財産権は各高専(発明者)で権利化手続きを行い、その結果を機構に報告します。

■出願終了までの標準的な流れ■

① ↓	「発明等届」、関連書類を作成	発明者が「発明等届」及び関連書類である「発明等説明書」、「新規性の調査書(兼申立書)」、「発明評価書(発明者用)」の4点を作成し、庶務課研究協力係に提出する。
② ↓	高専 知財委員会での審議	知的財産委員会が、発明者から提出された書類(①)を基に特許性、帰属の予備的判断などを行う。→知的財産委員会が発明評価書(知的財産委員会用)を作成
③ ↓	高専機構へ提出	研究協力係が発明者から提出された書類(①)に発明評価書(知的財産委員会用)及び議事要旨を添えて高専機構に提出する。
④ ↓	知財権を承継するか否か決定	発明者及び校長に高専機構から知的財産権を承継するか否かの決定通知が届く。 ※高専機構が承継しない場合は、個人帰属となる。不服がある場合は異議申立ができる。
⑤ ↓	知財権を譲渡する。	発明者は高専機構から知的財産権を承継する旨の通知を受け、「譲渡証書」(所定様式)を作成し、研究協力係経由で高専機構に提出する。
⑥ ↓	出願(審査請求)手続きを行う。	発明者が高専機構内で電子出願を行う。共同利用端末が発明協会愛知県支部(名古屋商工会議所ビル内)にあるので利用する。また弁理士に依頼することもできる。
⑦	出願後	<ul style="list-style-type: none"> ・発明者は出願書類一式(写)を研究協力係に提出する。 ・研究協力係は「知的財産管理カード」を作成し、発明者から預かった出願書類一式とともに高専機構に提出する。 ・発明者に研究奨励経費(H18年度現在予算措置)が支払われる。(譲渡補償金5千円含む)

◆国立高専機構が定めた規則等◆ (PDF)

- [□知的財産権取扱規則](#)
- [□知的財産ポリシー](#)

STEP①「発明等届」(関係書類含む)を作成

(1) 発明者は以下の4点を作成し、庶務課研究協力係に提出してください。

◆様式ダウンロード◆ (Word)

- 発明等届
- 発明等説明書 → 記載例
- 新規性の調査書(兼申出書) → 記載例
- 発明評価書(発明者用)

(2) 発明者は新規性の調査書に調査した旨の証拠(検索結果)を添付してください。

- ・検索 → <http://www1.ipdl.ncipi.go.jp/FP1/cgi-bin/FP1INIT?1172658909975> (特許電子図書館公開特許公報フロントページ)
- ・検索例(方法) → [こちら\(PDF\)](#)をご覧ください。
- ・参考 → <http://www.ncipi.go.jp/info/ipdl/service/index.html> (特許電子図書館)

(出典 ホームページ抜粋)

豊田高専 研究者総覧

全国高専研究者データベースより

Toyota National College of Technology



Toyota National College of Technology

<p>荻野 弘 OGINO Hiroshi 環境都市工学科 教授 1944年生</p>	<p>TEL 0565-36-5875 FAX 0565-36-5927 E-MAIL ogino@toyota-ct.ac.jp 〒471-8525 愛知県豊田市栄生町 2-1 国立豊田工業高等専門学校</p>	
--------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------

【専門分野】 交通工学 交通計画 都市計画

【学位・資格・受賞等】
工学博士

【担当授業科目】

都市計画(4年) 計画数理(4年) 社会システム計画(5年) 環境計測実験(4年、専攻科1年)
都市環境(5年) 社会システム計画論(専攻科2年) 環境保全工学(専攻科2年) 卒業研究(5年) 特別研究(専攻科)

【研究課題】

- 高度道路交通システムに関する研究 (ITS, 交通管制, 所要時間予測, 情報提供)
- 交通事故防止対策に関する研究 (愛知県警察、国土交通省、愛知県、豊田市などの行政機関との共同研究)
- バリアフリーを目指した街づくり (バリアフリー、公共交通、高齢者、障害者、街づくり、都心活性化)

障害者を対象とした経路選択システム

出発地と目的地を入力すると障害レベルに応じた通行可能な経路を表示するシステム

【著書・論文・特許】

- An Analysis on Evaluation of the Route and Parking Guidance System in Toyota City : The 8th World Conference on Transport Research in Seoul, 2001.7
- Development of a Microscopic Traffic Simulation Model for Evaluating Traffic Management Schemes : The 8th World Conference on Transport Research in Seoul, 2001.7
- ファジィ的ニューラルネットワークを用いた追従走行モデルの構築, 土木学会土木情報システム論文集 vol.7, pp.73-80, 1998.
- 2006 交通事故データのGIS化と交通安全対策への適用・増岡義弘、橋本成仁、嶋田喜昭、荻野弘・第26回交通工学研究発表会論文報告集・2006・10・ pp.121-124.
- 2005 「ファサード整備の実証実験を活かした中心市街地活性化に関する調査研究-豊川

【所属学会・協会等】 土木学会 交通工学研究会 交通心理学会 日本都市計画学会 都市学会
大阪交通科学研究会 日本工学教育協会

【相談分野】

- 交通問題全般(交通工学, 都市計画, 地域計画, 地区計画)
- バリアフリー問題(人にやさしい街づくり)
- 交通事故防止対策
- ITSによる交通制御技術

(出典 研究者総覧抜粋)

外部講師による科学研究費補助金に関する説明会

科学研究費補助金について

名古屋大学 工学研究科
早川義一

平成17年9月22日 豊田工業高等専門学校

目次

(1) 科研費の種目、応募・採択の状況

1) 科研費の種目

2) 応募と採択の状況

(2) 審査の方法・着目点など(平成17年度の場合)

1) 審査の仕組み

2) 第1段審査における評価基準

3) 第2段審査への反映方法

(3) 申請において留意しておきたいこと

より具体的に
さらに、一言

(1) 科研費の種目、応募・採択の状況

1) 科研費の種目

■ 科学研究費補助金(科研費)

・ 基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を **格段に発展させる**ことを目的とする競争的研究資金

・ プア・レビューによる審査を経て、**独創的・先駆的な研究**に対して助成

■ 種目

特別推進研究、 特定領域研究
 基礎研究(S)、(A)、(B)、(C) 萌芽研究
 若手研究(A)、(B)

「知の創出」から
「社会的価値の創造」へ

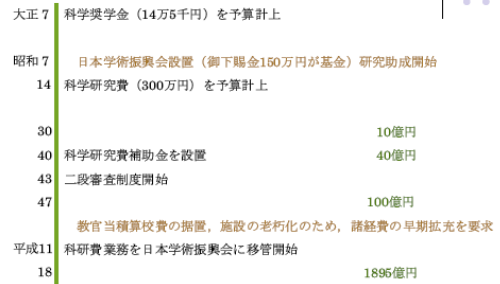
研究種目の区分	研究期間	応募総額	備 考
基礎研究(S)	原則5年	5,000万円 ～1億円程度	これまでの研究成果を踏 まえて・・・
基礎研究(A)	2～4年	2,000万円 ～5,000万円	独創的、先駆的な研究を 格段に発展させるための 研究計画
基礎研究(B)		500万円 ～2,000万円	
基礎研究(C)		～500万円	
萌芽研究	1～3年	～500万円	特に意外性のある着想に 基づく芽生え期の研究
若手研究(A)	2～3年	500万円 ～3,000万円	・37歳以下の研究者一人 ・将来の発展が期待できる 優れた着想
若手研究(B)		～500万円	



科学研究費補助金がわかる

名古屋大学工学研究科
小野木 克明

科研費の歴史



科研費の目的と変遷

■ 目的:

科研費の根拠は法律補助でなく予算補助

科学研究費補助金(科研費)は、人文・社会科学から自然科学まで全ての分野にわたり、**基礎から応用まで**のあらゆる「学術研究(研究者の自由な発想に基づく研究)」を格段に発展させることを目的とする「競争的研究資金」であり、ピア・レビューによる審査を経て、**独創的・先駆的な研究**に対する助成を行うものである。

(平成17年度改訂; 19年度公募要領より抜粋)

■ 17年度改訂の趣旨:

- 1) 研究者の帰属先を問わない。 → 民間等にも門戸を開放
- 2) 応用研究も対象とする。 → 応用研究の重要性を明言

研究推進の分類と科研費の位置づけ

研究内容・研究者・研究組織等	イニシアティブ	
	政府による主導 2.2兆円	研究者の自由な発想 1.4兆円
あらかじめ設定	政府主導の国家プロジェクトの実施	大学共同利用機関 大学附置研究所 などにおける特定 目的の研究の推進
公募・審査競争的研究資金	各省がそれぞれ定める目的のための公募型研究の実施 2,806億円	科研費による研究の推進 1,895億円
研究者の自由	-----	基盤的経費による研究の推進

■ 科研費による多くの研究は、短期的な目標達成よりもむしろ長期的な視野に立ったものであり、社会にブレークスルーをもたらす画期的な研究成果を多く生み出している。(科学研究費補助金パンフレット2008)

(出典 科学研究費補助金に関する説明会資料)

平成18年 教育・研究プロジェクト経費配分額一覧表

(単位:円)

No.	研究代表者			研究分担者		種別	研究課題	配分額	備考
	所属学科	職	氏名	職	氏名				
1	一般	助教授	高津 浩彰	教授 助教授 助教授	伊藤 道部 藤本 巳由紀 鈴木 基伸	教育	豊田高専入学学生の性格について (普通高校入学者との比較)	60,000	
2	電気・電子	教授	西澤 一	講師	伊藤 和晃	教育	英語多読授業の継続による学生の英語運用能力 向上の実証と、地域貢献への展開可能性の調査	400,000	
3	情報	助教授	稲垣 宏			教育	直感的理解を助けるアルゴリズム教育支援シス テムの開発	260,000	
4	建築	教授	三島 雅博	教授 助教授 講師	大森 峰輝 竹下 純治 前田 博子	教育	建築学科における「建築設計製図」教育の指導法 に関する基礎的調査 ～特に学生による文献資料 の参照に関して・その2～	200,000	
5	建築	助教授	山田 耕司	教授 助教授 教授 教授 教授 助教授 講師 助手 技術専門職員 5年生 5年生 5年生 5年生 5年生	三島 雅博 鈴木 健次 田中 清人 加藤 賢治 大森 峰輝 今岡 克也 竹下 純治 前田 博子 平岩 陸 武田 紀子 小林 正 今野 貴広 近藤 弘幸 鈴木 敦仁 水野 匠 森下 洋平	教育	同好会活動を利用した低学年導入教育に関する研 究 ー異なる学年によるコラボレーション作業の効果ー	250,000	
6	建築	助教授	鈴木 健次	助手	武田 紀子	教育	夏期学習環境改善のための学内施設の温熱環境 調査(2)ー学生寮および講義室の遮熱処理の検 証ー	400,000	
7	技術部	技術専門職員	渡辺 正人	助教授 講師	杉浦 藤虎 伊藤 和晃	教育	創造性を育む実験セットの開発	300,000	
8	技術部	技術職員	田邊 渉	教授 助教授 講師	大塚 秀昭 櫻本 貴志 小山 暁	教育	物理実験に関するホームページ作成を通じた安全 意識向上への取り組み	270,000	
9	一般	助教授	高村 明	名大客員研究員 名大COE研究員	木村 恵一 吉川 直志	研究	GLoBESソフトウェアによるニュートリノと反 ニュートリノの違いが顕著に現れる条件の探索	300,000	

教員会議(18.6.14)資料(7)

No.	研究代表者			研究分担者		種別	研究課題	配分額	備考
	所属学科	職	氏名	職	氏名				
10	機械	教授	林 伸和	教授	小林 政教	研究	研究テーマ「金属箔のマイクロフォーミング」による マイクロ/メゾ成形加工ワークショップへの参加	120,000	
11	機械	助教授	長谷川 茂雄			研究	円すいディフューザ内の流れのはく離に及ぼす壁 面旋回流の効果	100,000	
12	機械	助教授	近藤 尚生			研究	複数の段付き磁極面を有する軸対称形状電磁比 例アクチュエータの開発研究	500,000	
13	機械	助教授	清水 利弘			研究	Ti-Ni超弾性ワイヤの曲げ疲労特性の解明	200,000	
14	電気・電子	助教授	齊藤 努			研究	携帯できる点字読み取り装置の開発	180,000	
15	電気・電子	助手	高木 宏幸			研究	磁性体・圧電体評価装置の作製	400,000	
16	情報	助教授	早坂 太一			研究	錯覚を起こすロボットビジョン	300,000	
17	環境	助教授	忠 和男			研究	接触型縦リブ補強による既設円筒鋼製橋脚の耐震 補強に関する実験的研究	300,000	
18	環境	助教授	山下 清吾			研究	森林斜面における降雨の地下浸透分布に関する 実験的研究	500,000	
19	環境	助教授	河野 伊知郎			研究	テストハンマー法による超速硬セメントコンクリート の鉛直打撃における圧縮強度推定法について	300,000	
20	環境	助教授	川西 直樹			研究	PC構造物内のPC鋼棒の腐食による力学性能変化 について	200,000	
21	環境	助手	小林 睦	教授	伊東 孝	研究	遠心模型実験装置を用いた降雨シミュレーション装 置の開発	400,000	
22	建築	講師	前田 博子			研究	公共図書館におけるNPOおよびボランティアの活 動に関する研究 ー公共図書館と住民との新たな 関係の模索ー	300,000	
合 計								6,240,000	

(出典 教員会議 (H18.6.14) 資料)

共同研究と卒業研究・特別研究の関係(平成18年度の例)

共同研究

研究題目	研究者名等	相手先	卒業研究・特別研究との関係	
1 バルブコッター形状の画像表示に関する研究	松田文夫(I科)	広瀬テクノロジー(株)	卒業研究	特別研究
2 木造住宅の簡易耐震診断用の水平起振システムの開発	今岡克也(A科)	(株)サンエス	—	—
3 水平起震実験を用いた木造2階建住宅の耐震補強効果に関する研究	今岡克也(A科)	(株)サカエ	—	—
4 リモートレーザの応用開発	洞口 巖(M科)	(株)協豊製作所	卒業研究	特別研究
5 電磁シールド工法の確立	洞口 巖(M科)	(株)協豊製作所	卒業研究	—
6 振動実験による木造2階建住宅の耐震性能に関する研究	今岡克也(A科)	東海EC(株)	—	—
7 微粒珪砂混入路盤材の保水力向上粒度の研究	伊東 孝(C科)	ヤハギ道路(株)	—	特別研究
8 微粒珪砂を無機質系固化材で、固定した場合の保水力及び飛散の研究	中嶋清実(C科)	ヤハギ道路(株)	卒業研究	特別研究
9 新潟県中越地震での木造住宅の被害率と地盤の振動特性に関する研究	今岡克也(A科)	長岡技科大	—	特別研究
10 アンカー式補強土壁の降雨時および地震時における安定性評価法の開発	小林 睦(C科)	豊橋技科大	卒業研究	—
11 車両を利用した小型ラジオアンテナ(FM用)の開発	後田 澄夫	小島プレス工業(株)	卒業研究	—
12 ISM工法の低強度固化体の物性確認試験の評価・助言	中嶋清実(C科)	ISM工法研究会	卒業研究	—
13 通過交通に関する交通実態分析	荻野 弘(C科)	(財)豊田都市交通研究所	卒業研究	特別研究

17年度から継続

C++言語によるIC設計への取り組み	仲野 巧(I科)	デンソーテクノ(株)	—	特別研究
砕石粉を利用した高性能コンクリートの開発	中嶋清実(C科)	中央砕石(株)	卒業研究	特別研究

受託研究

研究題目	研究者名等	相手先	備考	備考
1 名古屋高速道路都心環状線における交通円滑化に関する研究	荻野 弘(C科)	(財)名古屋高速道路協会	—	特別研究
2 高セキュリティ機能を有する次世代OS環境の開発	平野 学(I科)	文部科学省	—	—
3 平成18年度「サブテラヘルツ帯UWB通信技術に関する研究」	安藤 浩哉(I科)	総務省	—	—

共同研究等に関係する卒業研究・特別研究のテーマ(例)

- ・三角測量距離計測センサを用いた三次元形状計測システムによる立体部品の傷検出法の動作確認
- ・地区内通過交通の実態と住民意識に与える影響に関する研究
- ・アイマークレコーダによる名古屋高速都心環状線の資格分析

(出典 庶務課作成資料)

地域共同テクノセンター利用申込書

平成18年6月7日

使用責任者氏名(教職員)

洞口先生

使用日時	平成18年6月7日(水) 12時00分 ~ 時 分	
利用の種類	学外との → 共同研究・技術相談・技術セミナー・技術交流会 その他() 学内における → 教員研究・特別研究・(その他) 卒研)	
使用する部屋及び設備	〔1階〕 交流サロン管理室 技術研修相談室(レーザードップラ振動計・FFTアナライザ・デジタルオシロ) 精密測定室(三次元座標測定システム・SEM及びEDS) 研究ラボA(工具顕微鏡・金属顕微鏡・デジタルスコープ・微小硬度計・万能投影機) 〔2階〕 研究ラボB(眼球運動測定装置・高速度カメラシステム) 研究ラボC(三次元画像処理システム) 物性測定室(ガスクロマトグラフ質量分析計・極低温高周波特性測定装置) 技術セミナー室(有限要素構造解析システム・CADシステム・その他)	
使用の目的	電磁シールド測定	
利用者	所属	氏名
・学内者	機械工学科	合家
	電気 "	武藤
・学外者	(株)協豊製作所	西川
		岡田

※いずれかに○を付すか記入しテクノセンター内のポスト又は研究協力係に提出願います。

※戸締りや火の元等は各自、責任をもって行ってください。

(出典 地域共同テクノセンター利用申込書)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、高等専門学校設置基準に規定された高専における研究活動の目標として4つの項目を掲げている。すなわち、1) 基礎研究と技術シーズの育成、2) 技術交流の促進と研究成果の創出、3) 外部研究資金等の導入、4) 実践的技術者の育成と研究教育への還元である。これらを実現するために地域共同テクノセンターを中心とした支援体制が生まれ、テクノフォーラムやセミナーの開催等の活動が広く行われている。

以上のことから、研究活動を遂行するにあたっての体制が整備され、支援体制も機能していると判断される。

観点A-1-②： 研究の目的に沿った活動の成果が上げられているか。

(観点に係る状況)

本校の掲げる教育活動に関する4つの項目における活動の成果について以下に述べる。

本校教員と地域企業との共同研究の実績について資料A-1-②-1に示すとおり、過去3年間で56件を実施しており、地域企業のニーズに応えるものとなっている。また、地域企業からの技術相談について資料A-1-②-2に示すとおり、過去3年間で19件の実績がある。

地域共同テクノセンターを中心とした地域貢献としては、平成18年度経済産業省「高専等を活用した中小企業人材育成」委託事業を実施した。「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」の4つの講座(各10回、各講座募集人員20名)では、地元企業29社より延べ97名の受講者が参加し、92名に修了証書を授与した(資料A-1-②-3)。

外部資金の獲得状況については、過去3年間の民間企業からの共同研究費、受託研究費及び奨学寄付金の受け入れ件数並びに総額を資料A-1-②-4に示す。また、過去3年間の科学研究費補助金の申請件数、採択件数及び金額について資料A-1-②-5に示す。こうした結果より、本校の教員の研究活動が活性化していることが明らかである。加えて、本校教員が推薦者となって支援して研究を進める技術職員による科学研究費補助金(奨励研究)の申請件数と採択件数及び金額についても明らかのように、教育研究に関する申請が非常に活発であり、成果が教育にも反映していると考えられる。また、教員による実践的技術者の育成と研究教育への還元については、専攻科学生の特別研究の成果を学会発表等で行っており、過去3年間の件数と平成18年度の題目を資料A-1-②-6に示す。

過去3年間における教員による研究業績について資料A-1-②-7に示す。毎年多くの研究成果が恒常的に公表されていることから、研究活動が十分に高いレベルにあることがわかる。さらに、これら研究の成果の一つである特許についても、過去3年間に4件の出願を行っている。

こうした教員による研究成果の教育への還元として、準学士課程や専攻科課程の学生の研究発表にも研究指導の成果が現れている。また、本校学生がNHKロボットコンテスト、プログラミングコンテスト、デザインコンペティションで優秀な成績を収めていることにも、技術職員を含む教職員のアクティビティが関連していると考えられる。

共同研究の実績について



(出典 H19学校要覧 p53)

平成18年度民間等との共同研究

19.2.21

件数	研究組織			研究題目	形態	金額 (円)	備考
	本校研究代表者	本校研究者	民間機関等				
1	情報工学科・教授 仲野 巧		デンソーテクノ(株)	C++言語によるIC設計への取り組み(次世代型デジタル回路設計事業の確率)	研究経費のみ受入れの分担型	3,000,000	変更・複数年度契約 17.6.15~19.3.31 研究経費 17年度に納入済
	環境都市工学科・教授 中嶋 清実		中央砕石(株)	砕石粉を利用した高性能コンクリートの開発	研究経費のみ受入れの分担型	500,000	変更・複数年度契約 17.7.7~19.3.31 研究経費 17年度納入済
1	情報工学科・教授 松田 文夫	情報・講師 早坂 太一	広瀬テクノロジ(株)	バルブコッターの形状の画像表示に関する研究	研究経費のみ受入れの分担型	500,000	
	建築学科・教授 今岡 克也		(株)サカエ	水平起振実験を用いた木造2階建住宅の耐震補強効果に関する研究	研究経費のみ受入れの分担型	600,000	
2	建築学科・教授 今岡 克也		(株)サンエス	木造住宅の簡易耐震診断用の水平起振システムの開発	研究経費のみ受入れの分担型	500,000	
	建築学科・教授 今岡 克也		東海EC(株)	振動実験による木造2階建住宅の耐震性能に関する研究	研究経費のみ受入れの分担型	400,000	
5	機械工学科・教授 洞口 巖		(株)協豊製作所	リモートレーザの応用開発	研究経費のみ受入れの分担型	300,000	
	機械工学科・教授 洞口 巖	電気・教授 後田 澄夫	(株)協豊製作所	電磁シールド工法の確立	研究経費のみ受入れの分担型	300,000	
7	建築学科・教授 今岡 克也	長岡技術科学大学の分担者	長岡技術科学大学	新潟県中越地震での木造住宅の被害率と地盤の振動特性に関する研究	研究経費のみ受入れの分担型	300,000	高専機構本部による包括契約
	環境都市工学科・教授 中嶋 清実	環境・助教授 河野伊知郎	ヤハギ道路(株)	微粒珪砂を無機質系固化材で、固定した場合の保水力及び飛散の研究	研究経費のみ受入れの分担型	250,000	
9	環境都市工学科・教授 伊東 孝	環境・助手 小林 睦	ヤハギ道路(株)	微粒珪砂混入路盤材の保水力向上粒度の研究	研究経費のみ受入れの分担型	250,000	
	環境都市工学科・助手 小林 睦	豊橋技術科学大学の分担者	豊橋技術科学大学	アンカー式補強土壁の降雨時および地震時における安定性評価法の開発	研究経費のみ受入れの分担型	700,000	高専機構本部による包括契約
11	電気・電子システム工学科・教授 後田 澄夫		小島プレス工業(株)	車両を利用した小型ラジオアンテナ(FM用)の開発	研究経費のみ受入れの分担型	200,000	
	環境都市工学科・教授 中嶋 清実	環境・教授 伊東 孝	ISM工法研究会	ISM工法の低強度固化体の物性確認試験の評価・助言	研究経費のみ受入れの分担型	400,000	
13	環境都市工学科・教授 荻野 弘	環境・教授 野田 宏治	(財)豊田市交通研究所	通過交通に関する交通実態分析	研究経費のみ受入れの分担型	500,000	

5,200,000


(出典 庶務課資料)

資料A-1-②-2

過去3年間の技術相談件数

	平成18年度	平成17年度	平成16年度	計
技術相談件数	8件	4件	7件	19件

(庶務課資料より作成)

地域共同テクノセンタ 長 

庶務課長
提出日：平成 18 年 8 月 4 日

資料 / 
供
関

技術相談申込書

相談申込者：

会社名	名古屋市役所		
所属	住宅都市局都市再生推進部		
氏名	渡辺 博	役職	参事
連絡先	〒480-8508 名古屋市中区三の丸三丁目1番1号		
TEL	052-972-2745	FAX	052-972-4171

相談事項：

相談内容（具体的に書いてください。）
名古屋市の名古屋-長久手線における交通処理について

(詳しい説明が必要な場合は、別紙を添付してください。)

希望相談分野・ 都市計画・交通工学
希望相談者氏名 荻野 弘

相談結果：※以下は本校の教員（相談者）が記載します。

相談者氏名	荻野 弘	相談年月日	平成18年 8月 4日
相談結果	①交通容量削減策による迂回処理 ②都市計画駐車場の整備 ③住民対話 以上の都市政策が必要 記入者氏名（ 荻野 弘 ）		

申込書送付先：

〒471-8525 豊田市栄生町2丁目1番地
豊田工業高等専門学校
庶務課 研究協力係
TEL：0565-36-5828 FAX：0565-36-5930

(出典 庶務課資料)

平成18年度 経済産業省《高専等を活用した中小企業人材育成》委託事業

「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」

受講者募集



【開講講座】

講座名	開講期間	申込締切日
①「匠の技術から学ぶものづくり」 【水曜日】18:00～20:00（10回）	平成18年9月13日 ～11月15日	平成18年8月28日(月)
②「製造技術者のための基礎設計技術」 【水曜日】18:00～20:00（10回）	平成18年11月22日 ～平成19年2月7日	平成18年11月6日(月)
③「製造技術者のためのデジタル技術」 【火曜日】18:00～20:00（10回）	平成18年10月10日 ～12月12日	平成18年9月25日(月)
④「技術者の素養を磨くスキルアップ講座」 【土曜日】9:30～11:30（10回）	平成18年10月21日 ～平成19年1月20日	平成18年10月2日(月)

※ 募集人数：各講座20名（定員になり次第締め切ります。）

複数の講座を受講していただいて結構です。

管理団体：豊田商工会議所

実施機関：独立行政法人国立高等専門学校機構

豊田工業高等専門学校

「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」

研修講座受講要項

■ 《事業概要》

中小企業製造現場の若手技術者・技能者を主な対象とした人材育成プログラムです。講義に加え実験・実習などの実技と共に、グループ討論・企業研修などを織り込み、受講者が身をもって体験しながら学ぶことができるプログラムを目指しています。

■ 《受講対象者》

中小企業製造現場の若手・初学技術者・技能者、技術者を目指している従業員
専門知識の幅（機械系技術者でデジタル技術など）を広げたい技術者

■ 《募集人数》

各講座とも 20 名

■ 《受講料》

無料（ただし、各講座とも全期間ご参加いただきます。）

なお、協力機関への交通費、実習・実験等に係る保険費用は自己負担です。



■ 《研修会場》

各講座とも、「豊田高専地域共同テクノセンター」で実施します。

（ただし、特別講演、企業研修、技術研修を除く。）

（1）講座研修会場：

豊田高専 地域共同テクノセンター（〒471-8525 豊田市栄生町 2-1）

TEL: (0565) 36-5941（橋本）、FAX: (0565) 36-5930

（2）特別講演会場：

豊田商工会議所（〒471-8506 豊田市小坂本町 1-25）

TEL: (0565) 32-4594（鷺見）、FAX: (0565) 34-1777

（3）企業研修会場：

（株）デンソー技研センター（〒446-8507 安城市高棚町新道 1）

（株）デンソー 高棚製作所（〒446-8507 安城市高棚町新道 1）

TEL: (0566) 73-2612（村田）、FAX: (0566) 73-2965

（4）技術研修会場：

愛知県産業技術研究所（〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割）

TEL: (0566) 24-1841（高須）、FAX: (0566) 22-8033

■ 《受講修了》

受講修了者（出席率 70%以上）には、受講者及び派遣企業に「修了証書」を授与します。

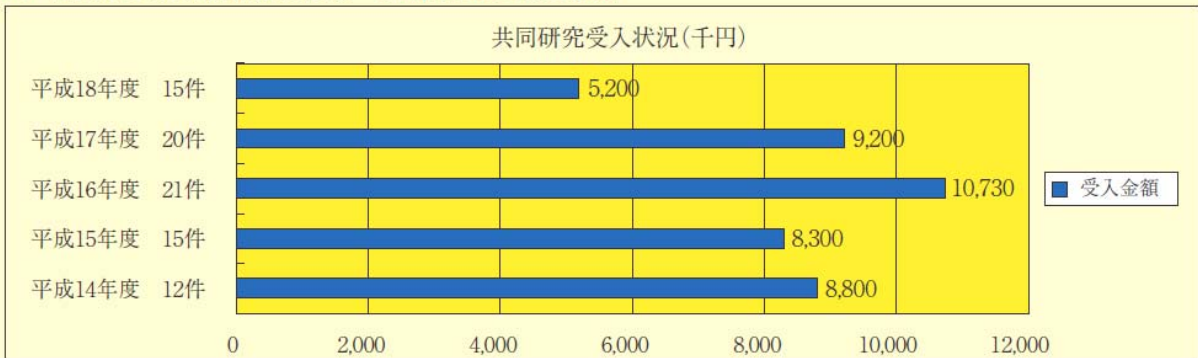
また、優秀者には「優秀証書」を授与します。

（出典 平成18年度経済産業省「高専を活用した中小企業人材育成」委託事業パンフレット抜粋）

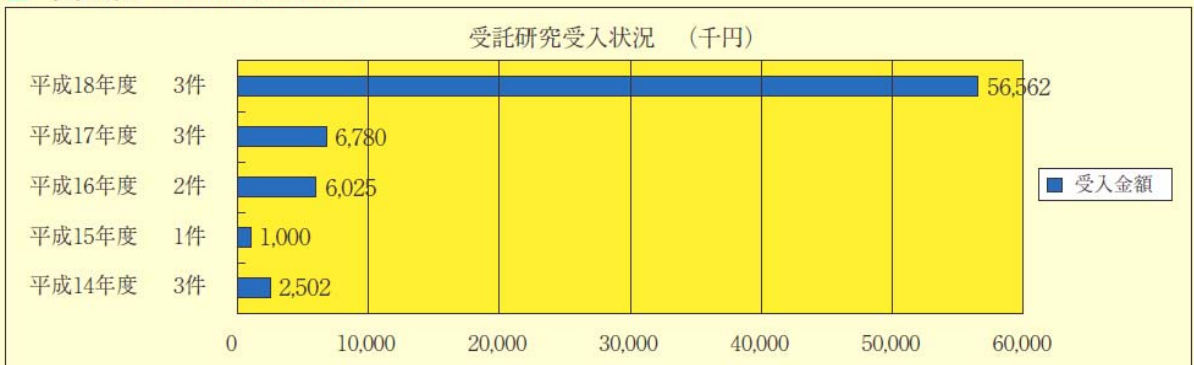
資料A-1-②-4

共同研究費，受託研究費及び奨学寄付金の受入実績

■ 民間等との共同研究受入実績 Cooperative Research



■ 受託研究 Contract Research



■ 奨学寄附金 Grants and Endowments

(単位：千円)

年度 区分	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
件数	13	16	23	21	10
受入金額	11,932	15,690	16,162	17,055	10,676

(出典 H19学校要覧 p53)

20. 科学研究費補助金 SCIENTIFIC RESEARCH

■ 科学研究費補助金採択状況 Grant-in-Aid for Scientific Research

(単位：千円)

区分		年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度
基盤研究(C)	件数		*11	*6	5	9	*9
	補助金額		12,600	4,000	4,300	12,000	11,960(2,760)
若手研究(B)	件数		☆3	4	5	5	*☆7
	補助金額		4,800	4,900	9,000	3,000	9,100
奨励研究	件数		1	4	3	5	2
	補助金額		220	2,910	2,060	3,820	1,470
合計	件数		15	14	13	19	18
	補助金額		17,620	11,810	15,360	18,820	22,530(2,760)

注意 *印は、採択者が他大学に転勤後、採択されたものも含む。(件数各1件)
 ☆印は、他大学で採択され、本校に転入したものも含む。(件数各1件)
 平成19年度の実績に若手研究(スタートアップ)の結果は含まず。
 () は内数で間接経費。

(出典 H19学校要覧 p53)

申請件数

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
申請件数(奨励を含む)	63件	84件	85件

■平成18年度科学研究費補助金交付一覧

研究種目	所属	職	氏名	交付金額	研究課題	備考
基盤研究(C)	環境都市工学科	教授	伊東 孝	¥ 800,000	岩石のAEおよび電位差計測による繰り返し荷重下の長期強度予測	継続
基盤研究(C)	一般学科	教授	神谷 昌明	¥ 700,000	英語コーパスを利用したコロケーションの成立過程に関する統語論的研究	継続
基盤研究(C)	電気・電子システム工学科	助教授	杉浦 藤虎	¥ 1,200,000	低価格な創造性開発実験セットの構築および創造性育成教育の定量的評価	継続
基盤研究(C)	電気・電子システム工学科	教授	西澤 一	¥ 1,200,000	基礎数学における三表現の相互関係に注目した、学習者理解度深化法の研究	継続
基盤研究(C)	機械工学科	助教授	近藤 尚生	¥ 500,000	複数磁極を配置した高推力ナリアバルブアクチュエータの開発研究	継続
基盤研究(C)	情報工学科	講師	木村 勉	¥ 1,800,000	Webカメラ入力を用いた日本語-日本語電子辞書のユーザーインターフェースの開発	新規
基盤研究(C)	情報工学科	教授	竹下 鉄夫	¥ 2,700,000	デザイン能力を育むための複数入力方式に対応した文字認識システム	新規
基盤研究(C)	建築学科	助教授	山田 耕司	¥ 1,800,000	数値解析による土壁・小壁の耐力発現機構の解明と実験による仮説の検証	新規
基盤研究(C)	建築学科	助教授	鈴木 健次	¥ 1,300,000	不均一温熱環境評価のための局部気流環境における人体影響評価に関する実験的研究	新規
若手研究(B)	建築学科	助手	平岩 陸	¥ 300,000	非連続体モデルを用いた繊維補強コンクリートの破壊解析	継続
若手研究(B)	情報工学科	助手	平野 学	¥ 700,000	IPv6インターネットにおけるハードウェア認証ICチップの開発とロボットへの適用	継続
若手研究(B)	環境都市工学科	助教授	原田 英治	¥ 500,000	固液混相流モデルによる急傾斜地液状化地滑り災害の計算力学的研究	継続
若手研究(B)	電子・電気システム工学科	講師	伊藤 和晃	¥ 1,000,000	Jerk最小化軌道と適応型摩擦補償によるテーブル駆動装置の高速・高精度位置決め	継続
若手研究(B)	一般学科	助教授	今 徳義	¥ 500,000	異分子認識機能を備えた水溶性ヘテロダイトビックセプターの開発	新規
奨励研究	技術部(技術長)	専門員	河合光久	¥ 730,000	初心者用マイクロシーケンサ学習システムの構築に関する研究	新規
奨励研究	技術部第二技術グループ長	技術専門職員	杉藤哲正	¥ 730,000	創造電気実験における自己学習能力の育成を目指した教育教材の開発	新規
奨励研究	技術部第二技術グループ	技術専門職員	佐々木宣孝	¥ 750,000	低学年向けものづくり教育用プリント基板の開発環境の構築に関する研究	新規
奨励研究	技術部第一技術グループ	技術専門職員	後野昭次	¥ 760,000	低学年機械系学生のためのロボット制御回路・制御プログラムの自動制作システムの開発	新規
奨励研究	技術部第一技術グループ	技術専門職員	北嶋正巳	¥ 850,000	注視点解析装置を用いた学生実験における安全管理手法の確立に関する研究	新規

(出典 庶務課資料)

専攻科修了生発表論文一覧

	電子機械工学専攻	建設工学専攻	情報科学専攻	計
平成18年度	9件／7人	20件／11人	16件／11人	45件／29人
平成17年度	12件／9人	8件／6人	17件／8人	37件／23人
平成16年度	9件／6人	34件／12人	2件／3人	44件／21人

平成18年度専攻科修了生発表論文一覧

電子機械工学専攻

1. 浅原 純

- 1) 浅原純, 伊藤和晃, 犬塚勝美: 遠隔制御実験用装置の開発, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-038, (2006.9)

2. 岸本和也

- 1) 林伸和, 小林政教, 岸本和也, 広田健治: 深絞り加工におけるブランク端の形状変化, 第56回塑性加工連合講演会講演論文集, pp.63-64, (2005.11)
- 2) 林伸和, 岸本和也, 小林政教, 広田健治: 段付き端を持つ素板の深絞り加工, 日本機械学会東海支部第56期総会・講演会講演論文集(掲載予定), (2007.3 予定)

3. 古宮 聡

- 1) 古宮聡, 大野互, 斉藤努: 位相同期回路におけるカオスの存在領域に関する研究, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-005, (2006.9)

4. 近藤悠太

- 1) 近藤悠太, 犬塚勝美: 自動追尾装置の製作, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-069, (2006.9)

5. 財津吉裕

- 1) 財津吉裕, 犬塚勝美, 伊藤和晃: 光照射と植物葉面電位の応答に関する研究, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-077, (2006.9)

6. 三橋 進

- 1) 三橋進, 伊藤和晃: ボールねじ駆動テーブル装置の摩擦モデリング, 平成16年度高専卒業研究発表会講演論文集, p31~32, (2005.3)
- 2) 三橋進, 伊藤和晃, 犬塚勝美: 外乱オブザーバによるボールねじ駆動テーブル装置の高速・高精度位置決め, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-039, (2006.9)

7. 三宅弘和

- 1) 三宅弘和, 犬塚勝美, 伊藤和晃: 微分器のないMRASを用いた車椅子の電動化装置のモータ制御に関する研究, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-068, (2006.9)

建設工学専攻

1. 市川友子

- 1) 市川友子, 荻野弘, 野田宏治: 高齢者・障害者のための街路選択システムの構築, 日本福祉のまちづくり学会第8回全国大会概要集, 日本福祉のまちづくり学会, CD-ROM, (2005.8)

2. 犬塚恵介

- 1) 犬塚恵介, 竹下純治, 加藤彰一: プレゼンボードを用いた建築設計教育支援システムの構築と導入, 日本建築学会学術講演梗概集E-1 建築計画I, 2006年度大会
- 2) 犬塚恵介, 小林正, 竹下純治, 加藤彰一: プレゼンボードを用いた建築設計教育支援システムの構築と導入(その1), 日本建築学会東海支部研究報告集第45号, 2006年
- 3) 犬塚恵介, 小林正, 竹下純治, 加藤彰一: プレゼンボードを用いた建築設計教育支援システムの構築と導入(その2), 日本建築学会東海支部研究報告集第45号, 2006年

3. 城殿隼一郎

- 1) 佐伯圭彦, 今岡克也, 城殿隼一郎: 木造2階建住宅の耐震補強前後の振動特性に関する研究 その1, 日本建築学会学術講演梗概集 C-1 構造III, 2005年度大会
- 2) 城殿隼一郎, 今岡克也, 佐伯圭彦: 木造2階建住宅の耐震補強前後の振動特性に関する研究 その2, 日本建築学会学術講演梗概集 C-1 構造III, 2005年度大会
- 3) 今岡克也, 城殿隼一郎, 佐伯圭彦: 木造2階建住宅の耐震補強前後の振動特性に関する研究 その3, 日本建築学会学術講演梗概集 C-1 構造III, 2005年度大会

4. 草野雄哉

- 1) 草野雄哉, 原田英治: 波浪による消波ブロック群高密度化の検討, 平成17年度土木学会中部支部研究発表会(CD-ROM), (2006.3)
- 2) 草野雄哉, 原田英治: 消波ブロック群高密度化における内部構造の検討, 土木学会平成18年度全国大会第61回年次学術講演会(CD-ROM), (2006.9)

5. 佐伯圭彦

- 1) 佐伯圭彦, 今岡克也, 城殿隼一郎: 木造2階建住宅の耐震補強前後の振動特性に関する研究 その1, 日本建築学会学術講演梗概集 C-1 構造III, 2005年度大会
- 2) 城殿隼一郎, 今岡克也, 佐伯圭彦: 木造2階建住宅の耐震補強前後の振動特性に関する研究 その2, 日本建築学会学術講演梗概集 C-1 構造III, 2005年度大会
- 3) 今岡克也, 城殿隼一郎, 佐伯圭彦: 木造2階建住宅の耐震補強前後の振動特性に関する研究 その3, 日本建築学会学術講演梗概集 C-1 構造III, 2005年度大会

6. 酒井雄也

- 1) 川西直樹, 酒井雄也: モンテカルロシミュレーションによる腐食した鋼構造物の力学性能評価, 豊田高専紀要, 第39号, pp.73-78, (2006.11)

7. 清水雄介

- 1) 清水雄介, 竹下純治: 設計教育未受講学生を対象とした模型実験-建築模型の製作過程に見る学生のスケール感覚-, 日本建築学会東海支部研究報告集第45号, 2006年

8. 田中信次

- 1) 田中信次, 忠 和男, 川西直樹, 櫻井孝昌: 厚肉縦リブ補強による既設円筒鋼製橋脚の耐荷力実験, 豊田高専紀要, 第39号, pp.85-90, (2006.11)
- 2) 田中信次, 忠 和男, 川西直樹, 櫻井孝昌: 切り欠き付き縦リブを有する既設円筒鋼製橋脚の耐震補強実験, 土木学会第61回年次学術講演会講演概要集, I-347, pp.691-692, (2006.9)
- 3) 忠 和男, 田中信次, 櫻井孝昌: 薄肉縦リブ補強による既設円筒鋼製橋脚の耐荷力実験, 豊田高専紀要, 第38号, pp.65-70, (2005.11)

9. 土井裕子

- 1) 土井裕子, 大森峰輝: デザインゲーム的手法による公園利用者の意識調査, 日本建築学会東海支部研究報告集第44号, 2005年

10. 築瀬かおり

- 1) 築瀬かおり, 忠和男, 川西直樹, 櫻井孝昌: 接触による鋼製橋脚の耐震補強効果に関する研究, 土木学会第61回年次講演会概要集, I-012, pp.23-24, (2006.9)

11. 村松奈美

- 1) 村松奈美・前田博子: 公共図書館におけるテラス空間の評価に関する研究, 日本建築学会東海支部研究報告集第45号, 2006年

情報科学専攻

1. 磯部尚基

- 1) 磯部尚基, 竹下鉄夫, 江崎信行: 手相を用いた個人認証 - 手相の抽出 -, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-046, (2006.9)

2. 伊藤綾鹿

- 1) 内藤智唯, 伊藤綾鹿, 稲垣 宏: グラフアルゴリズムの可視化システムの開発, 平成17年度電気関係学会東海支部連合大会, 0-213, (2005.9)
- 2) 伊藤綾鹿, 稲垣 宏: グラフアルゴリズムの演習支援システムの開発, 教育システム情報学会第31回全国大会, D7-2, pp.533-534 (2006.8)

3. 鵜飼晃央

- 1) 鵜飼晃央, 仲野 巧: マルチプロセッサ向けアプリケーション実装手法の一考察, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, 0-360, (2006.9)

4. 大坪克次

- 1) 大坪克次, 佐々木宣孝, 安藤浩哉: 教育用デジタル信号処理ボードの製作, 計測自動制御学会中部支部教育工学論文集, 第29号, (掲載予定)

5. 河合夏輝

- 1) 河合 夏輝, 仲野 巧: uClinux による組込みシステムのリモート制御の一考察, 平成18年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, 0-362, (2006.9)

6. 内藤智唯

- 1) 内藤智唯, 伊藤綾鹿, 稲垣 宏: グラフアルゴリズムの可視化システムの開発, 平成 17 年度電気関係学会東海支部連合大会, 0-213, (2005. 9)
- 2) 内藤智唯, 稲垣 宏: グラフアルゴリズムを対象とした教育支援システムの開発, 情報処理学会第 68 回全国大会, 1V-8, (2006. 3)

7. 萩森 普

- 1) 本迫一誠, 萩森普, 松田文夫: 最小全域木を用いた対象駐車領域の抽出, 平成 17 年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-022, (2005. 9)
- 2) 萩森普, 本迫一誠, 松田文夫: 最小全域木による画像分割を用いた陰影除去への試み, 平成 17 年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-028, (2005. 9)
- 3) 萩森 普, 松田文夫: HSV 色空間を用いた繰り返し画像分割による影除去法, 平成 18 年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, 0-499, (2006. 9)

8. 長谷川正樹

- 1) 長谷川正樹, 平野学: 図書館利用カード機能を持ったスマートカードソフトウェアの開発, 豊田工業高等専門学校研究紀要, 第 39 号, pp. 67-72, (2006. 11)

9. 南島章登

- 1) 久々湊学, 南島章登, 竹下 鉄夫: 3 次元 CT 画像からの肝臓領域の抽出, 平成 17 年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-033, (2005. 9)
- 2) 南島章登, 久々湊学, 竹下 鉄夫: 3 次元 CT 画像からの腹腔領域の抽出, 平成 17 年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, P-032, (2005. 9)

10. 三宅一正

- 1) 三宅一正, 平野 学: スマートカードを利用した学内無線 LAN 環境における出席管理システムの設計と実装, 平成 17 年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, 0-203, (2005. 9)

11. 早稲田修史

- 1) 早稲田修史, 木村 勉: 手話-日本語電子辞書におけるユーザーインターフェースに関する研究 - 手型の認識 -, 平成 18 年度電気関係学会東海支部連合大会講演論文集, 0-403, (2006. 9)

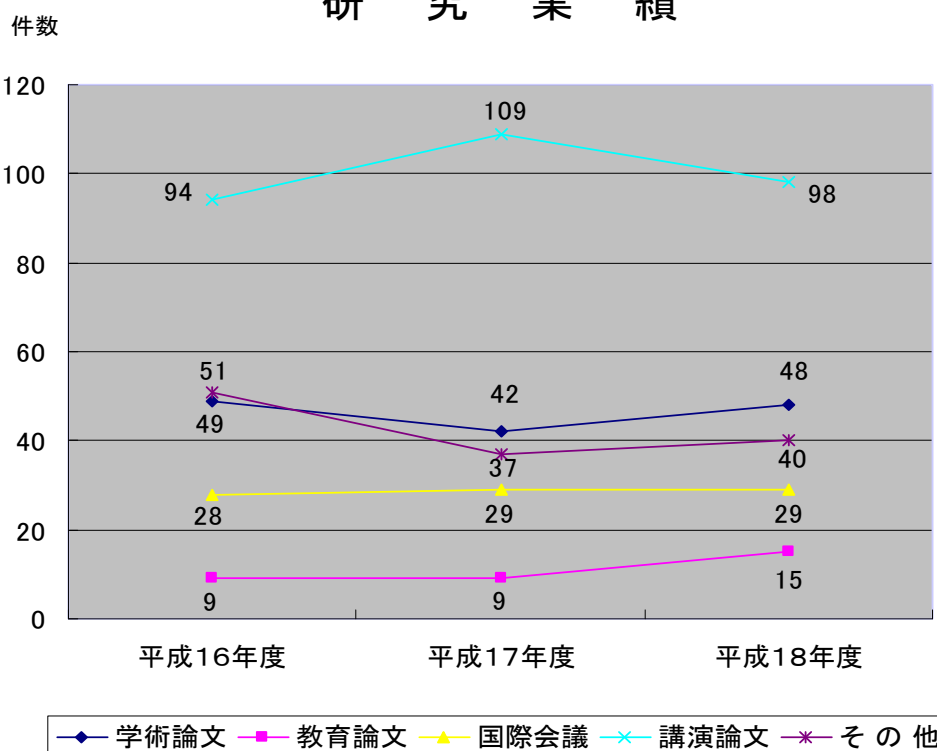
(出典 平成18年度専攻科修了生発表論文一覧)

資料A-1-②-7

研究業績一覧

	平成16年度	平成17年度	平成18年度
学術論文	49	42	48
教育論文	9	9	15
国際会議	28	29	29
講演論文	94	109	98
その他	51	37	40

研究業績



(出典：庶務課作成資料)

(分析結果とその根拠理由)

地域企業との共同研究の実績や技術相談の件数、奨学寄附金、共同研究及び受託研究の受け入れ等による外部資金の獲得状況や科学研究費補助金への申請件数、採択件数及び金額からみて、教員による研究活動が活発であり、また多くの研究成果が公表されていることや、学生の研究発表数からも研究の成果を教育に反映させるという目的に沿った活動の成果が現れている。

以上のことから、本校の掲げる研究の目的に沿った活動の成果が十分上げられていると判断する。

観点A-1-③： 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

本校では、教育研究施設の連携を図り、総合的な運営を行うため、地域共同テクノセンター、材料構造物疲労試験センター、ものづくりセンター及び専攻科を総合してテクノコンプレックスとしている(資料A-1-③-1)。テクノコンプレックスには、運営委員会があり、地域共同テクノセンター長、材料構造物疲労試験センター長、ものづくりセンター長、専攻科長、技術部長、地域共同テクノセンターの各部門長、技術部技術長、庶務課長、研究協力係長等により構成されている(資料A-1-③-2)。運営委員会は、各教育研究施設の連絡・調整を行っているが、例えば平成18年2月には、テクノコンプレックスのパンフレット(資料A-1-③-3)を作成し、共同研究や受託研究等の紹介や申し込み方法について企業に周知すること等の活動を行っている。地域連携を含む教員の研究活動については、地域共同テクノセンターで行っている。一方、地域共同テクノセンターでは、本校が開発した研究者データベースシステム(平成17年度に高等専門学校機構において、その有用性が認められ、全国高専共通の研究者データベースとして採用)(資料A-1-①-7)より、本校教員、技術職員のデータを出力して「豊田高専研究者総覧」(資料A-1-①-10)を発刊し、関連する企業に郵送(資料A-1-③-4)するとともに、教員の専門分野や技術シーズ等の情報発信と通じて産学連携の推進を図っている。

平成16年度から、庶務課に研究協力係を設け、地域企業からの技術相談や産学連携、HP上での研究協力に関する情報の外部への公開を推進している(資料A-1-③-5)。また、科学研究費補助金の申請と採択件数の増加を図るため、科学研究費補助金審査員経験者を講師に招き、説明会を開催(資料A-1-①-11)するとともに、校長裁量経費による教育・研究プロジェクト経費の公募を行っている(資料A-1-③-6)。

資料A-1-③-1



(出典 H19年度学校要覧 p32)

豊田工業高等専門学校テクノコンプレックス規程

制 定 平成16年4月1日
最終改正 平成17年2月22日

(設置)

第1条 豊田工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、地域共同テクノセンター、材料・構造物疲労試験センター、ものづくりセンター及び専攻科（以下「センター等」という。）の連携を図り総合的な運営等を行うことを目的として、豊田工業高等専門学校テクノコンプレックス（以下「テクノコンプレックス」という。）を置く。

(業務)

第2条 テクノコンプレックスは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

- 一 センター等の総合的な運営・調整に関すること。
- 二 センター等を利用した本校教員の教育・研究活動の推進に関すること。
- 三 地域社会や企業等との共同研究・開発の推進に関すること。
- 四 その他テクノコンプレックスの目的達成に必要なこと。

(テクノコンプレックス長)

第3条 テクノコンプレックスにテクノコンプレックス長を置き、地域共同テクノセンター長をもつて充てる。

2 テクノコンプレックス長は、テクノコンプレックスの目的達成のための業務を総括する。

(副テクノコンプレックス長)

第4条 テクノコンプレックスに副テクノコンプレックス長を置き、本校教授の中からテクノコンプレックス長が推薦し、校長が任命する。

2 副テクノコンプレックス長は、テクノコンプレックス長の職務を補佐する。

(委員会)

第5条 テクノコンプレックスの円滑な運営を図るため、テクノコンプレックス運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第6条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 センター等の総合的な運営・調整に関する事項
- 二 センター等を利用した本校教員の教育・研究活動の推進に関する事項
- 三 地域社会や企業等との共同研究・開発の推進に関する事項
- 四 本校の教育・研究活用のための施設・設備の充実に関する事項
- 五 各センター等の予算、決算及びその他管理運営に関する重要事項
- 六 その他テクノコンプレックスの運営に関する事項

第7条 委員会は、次の各号に掲げる者をもつて組織する。

- 一 テクノコンプレックス長
- 二 副テクノコンプレックス長
- 三 材料・構造物疲労試験センター長
- 四 ものづくりセンター長
- 五 専攻科長
- 六 技術部長
- 七 地域共同テクノセンター部門長
- 八 各学科から推薦された教員若干名
- 九 技術部技術長
- 十 庶務課長
- 十一 研究協力係長

2 前項第7号に掲げる委員は、校長が任命し、任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

第8条 委員会に委員長を置き、テクノコンプレックス長をもつて充てる。

2 委員長は、委員会を主宰する。

3 委員長に事故が生じた場合は、副テクノコンプレックス長がその職務を代行する。

4 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

第9条 委員会の庶務は、庶務課において行う。

(雑則)

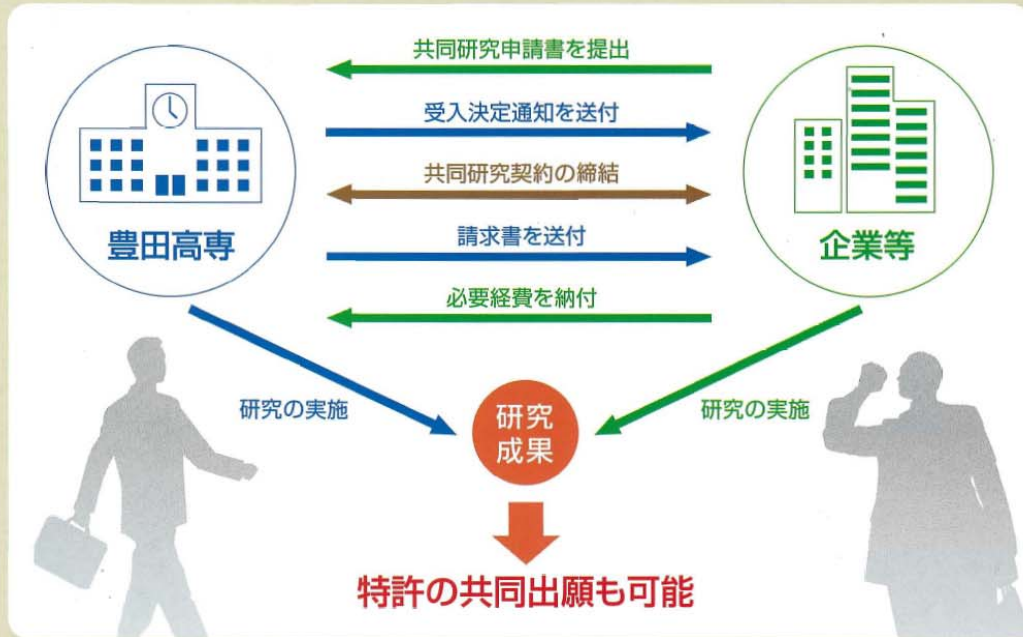
第10条 この規程に定めるもののほか、運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て、テクノコンプレックス長が定める。

(出典 規則集)

各種制度の紹介、申込方法

● 共同研究

企業等の研究者と豊田高専の教員が、対等の立場で共通の課題について共同して研究を進めるものです。相互に研究者、研究設備等を出し合い、密度の高い研究協力により、独創的な研究が期待できます。**豊田高専の教員に対する謝金は不要**です。



● 受託研究

企業等から委託された課題について、豊田高専の教員が実施し、その成果を企業等（委託者）に報告するものです。研究に要する経費は企業等（委託者）の負担となりますが、**豊田高専の教員に対する謝金は不要**です。

● 受託試験

豊田高専の教育研究上有意義であり、本来の教育研究に支障を生ずるおそれがないと認められる場合に限り、企業等からの依頼に応じて、特定項目の試験、分析、鑑定等を実施し、その結果を企業等（委託者）に報告するものです。

研究に要する経費としては、受託試験基準料金の金額が企業等（委託者）の負担となりますが、**豊田高専の教員に対する謝金は不要**です。

● 奨学寄附金

企業・団体・個人等から教育研究の振興を目的として受け入れる寄附金制度で、**特定の教員等を指定することもできます**。

この寄附金制度は研究成果を直接寄附者に還元するために作られたものではありませんが、学術研究や教育の充実・発展に重要な役割を果たしており、例えば、各種実験装置や図書の購入など豊田高専における環境整備に大いに活用されています。

● 技術相談

現場で生じる技術的な問題や疑問等についてのご相談に応じますので、本校指定の「技術相談申込書」に必要事項をできる限り詳しく記入し、庶務課研究協力係（FAX 0565-36-5930）に提出してください。**技術相談料は「無料」となっております**。

※その他詳細は豊田高専ホームページ (<http://www.toyota-ct.ac.jp>) 参照

(出典 テクノコンプレックスパンフレット抜粋)

資料A-1-③-4

豊田高専研究者総覧送付先

○共同研究先等企業

	機 関 名	宛名	住 所	部数
1	日本通信機(株)	開発部	242-0018 大和市深見7-4-12	2
2	(株)サカエ	建設部	470-1121 豊明市西川町善波6-15	2
3	(株)エス・エヌ・テー	事業企画・開発部	460-0001 名古屋市中区三の丸1-10-28	2
4	大有コンクリート(株)	技術部	460-0022 名古屋市中区金山5-14-2	2
5	(株)赤羽コンクリート	技術課	489-0003 瀬戸市穴田町983	2
6	東海EC(株)	商事部	467-0806 名古屋市長徳区瑞穂通り5-26	2
7	(株)サンエス	営業技術部	143-0016 大田区大森北1-1-5	2
8	(株)協豊製作所	技術開発部	471-8515 豊田市トヨタ町6	2
9	小島プレス工業(株)	アンテナ技術部	470-0207 西加茂郡三好町大字福谷字広久伝15	2
10	(株)産木	緑化部門	651-1412 西宮市山口町下山口2-8-15	2
11	ヤハギ道路(株)	施工本部工務課	471-0034 豊田市小坂本町1-5-10	2
12	広瀬テクノロジー㈱	システム開発室	470-0309 豊田市西広瀬町小麦生635-20	2
13	NPO手話技能検定協会名古屋支部	支部長	464-0819 名古屋市中千種区四谷通3-26 四ツ谷ビル501号	2
14	(株)トヨタマックス	先行開発部	471-0826 豊田市トヨタ町2	2
15	中央砕石(株)	プラスチック事業部	569-1051 高槻市大字原856-4	2
16	ファミリー(株)	開発技術室	532-0004 大阪市淀川区西宮原2-1-3 ソーラ新大阪21 13階	2
17	太啓建設(株)	土木部	471-0071 豊田市東梅坪町10-3-3	2
18	小野田ケミコ(株)	特殊コンクリート部	116-0014 荒川区東日暮里3-11-17	2
19	デンソーテクノ(株)	IC部	474-0025 大府市中央町2-188	2
20	松元産業(株)	-	448-0813 刈谷市小堀江町御茶屋下11-4	2
21	(株)花みずき工房	-	432-8068 浜松市大平台2-48-33	2
22	(株)ガルコン	-	465-0025 名古屋市中東区上社3-102 名東ビル201号	2
23	アイシン精機(株)	生産技術部	448-8650 刈谷市朝日町2-1	2
24	高砂熱学工業(株)名古屋支社三河営業所	技術課(総括所長)	448-0858 刈谷市若松町1-19	2

48

○文部科学省・経済産業省・高専機構本部

	機 関 名	宛名	住 所	部数
1	文部科学省高等教育局	専門教育課	100-8959 千代田区丸の内二丁目5番1号	1
2	文部科学省研究振興局	研究環境・産学連携課	100-8959 千代田区丸の内二丁目5番1号	1
3	経済産業省	産業技術環境局 大学連携推進課	100-8901 千代田区霞が関1-3-1	1
4	独立行政法人国立高等専門学校機構	総務課 企画課	193-0834 八王子市東浅川町701-2 108-0023 港区芝浦3-3-6	2 1

6

○国立大学法人(工学部)

	機 関 名	宛名	住 所	部数
1	国立大学法人名古屋大学	工学部	464-8603 名古屋市中千種区不老町	1
2	国立大学法人名古屋工業大学	テクノイノベーションセンター	466-8555 名古屋市中昭和区御器所町	1
3	国立大学法人岐阜大学	工学部	501-1193 岐阜市柳戸1-1	1
4	国立大学法人豊橋技術科学大学	工学部	441-8580 豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1	1
5	国立大学法人長岡技術科学大学	工学部	940-2188 長岡市上富岡町1603-1	1
6	国立大学法人静岡大学	工学部	422-8529 静岡市大谷836	1
7	国立大学法人三重大学	工学部	514-8507 津市上浜町1515	1

7

○県・市関係

	機 関 名	宛名	住 所	部数
1	中部経済産業局	地域経済部	460-8510 名古屋市中区三の丸2-5-2	2
2	(財)中部科学技術センター	総務部	460-0008 名古屋市中区栄2-17-22 名古屋科学館内	1
3	(財)科学技術交流財団	業務部共同研究・情報課	460-0002 名古屋市中区丸の内2-4-7 愛知県産業貿易館西館内	1
4	豊田商工会議所	会頭	471-8506 豊田市小坂本町1-25 豊田産業文化センター3階	1
5	豊田市役所	産業部産業労政課	471-8501 豊田市西町3-60	1
6	(財)豊田都市交通研究所	-	471-0025 豊田市西町4-25-18 中根ニッセイビル3F	1

7

○既に配付済み

	機 関 名	宛名	住 所	部数
1	校長			1
2	各学科主任、技術部			7
3	テクノコンプレックス長			1
4	(来客)デンソー技研センター			1

10

(出典 庶務課資料)

豊田高専では、地域社会への貢献のために

産学官連携

最終更新日：2006年
4月6日 13:37:28

各種制度のご案内

テクノコンプレックス

(工事中)



各種制度のご案内

(豊田高専のHPへもどる)

→) **BACK**

豊田高専は地域社会の発展に貢献することをめざしております。
本校の教員は学生に対する「教育」という重要な役割をこなしながら、学術の向上のために「研究」も行って
おり、日常の研究活動の中で得られた研究成果を活用して、企業等との共同研究や技術的な問題に対し
て相談に応じるなどを行っております。
企業等の皆様には以下のような制度を設けておりますので、ご活用ください。

研究協力制度

豊田高専は地域社会の発展に貢献します

技術的な問題に対して、アドバイスがほしい場合は「技術相談」をご利用ください。
相談内容によっては「共同研究」等でご要望にお応えできる場合もあります。
なお、共同研究等を行うにあたっては、本校の教員の都合（授業等教育活動）もありますので、当該教員とよく相談してください。



Click 豊田高専と対等の立場で（共通課題を）研究し、その研究成果を報告しあう。

<http://www.toyota-ct.ac.jp/~jimu/syomu/sannaku/sannaku-top.htm> (1/3)2007/03/01 15:19:40

豊田高専では、地域社会への貢献のために



Click 豊田高専に課題を委託し、その研究成果の報告を受ける。



Click 豊田高専に試験を依頼し、その試験結果（データ）の報告を受ける。



Click 現場で生じる技術的な問題や疑問等について、アドバイスを受ける。

奨学寄附金制度

豊田高専の教育・研究の発展にご支援をお願いします

本校の運営は、本来、国からの運営費交付金により運営されるものですが、企業や個人篤志家などから寄附金を受入れて、教育の充実・発展や学術研究の発展のために活用し、人材育成や各種研究協力制度によって、広く社会に還元しております。
今後、一層の教育研究の充実・発展のために多くの方からのご支援を期待しております。



Click 豊田高専における教育の充実・発展、学術研究のための支援をお考えの方へ

参考

☑ 各種制度の比較

(出典 ホームページ抜粋)

教育・研究プロジェクトについて (案)

1. 平成18年度教育・研究プロジェクト報告書の提出について

平成19年6月29日(金)までに、A4判2～3枚程度(様式任意)で、庶務課研究協力係に提出願います。

なお、当該研究に関連した審査論文、発表論文等があれば、その旨記入願います。

2. 平成18年度教育・研究プロジェクト報告会について

- (1) 実施日 平成19年7月18日(水)～19日(木)
※申請分野「教育」は18日(水)、「研究」は19日(木)に実施予定
詳細な時間は後日連絡予定
- (2) 場 所 記念会館会議室
- (3) 発表人数 22名
- (4) 発表者 別紙1「経費配分一覧表」参照
- (5) 発表時間 10分(発表7分、質疑応答3分) 時間厳守
- (6) 発表の方法 マルチプロジェクター(パソコンは各自用意)等を使用する等、
適宜の方法で行います。
提出された報告書は、報告者の一覧表を添付し、報告会開催時に
配付します。
なお、それ以外に会場で資料の配付を行いたい場合は、7月13日(金)までに印刷物を庶務課研究協力係までお持ち下さい。

3. 平成19年度教育・研究プロジェクトに係る経費申請について

別紙2「平成19年度教育・研究プロジェクト経費要項(案)」を参照の上、平成19年5月7日(月)までに、庶務課研究協力係に提出願います。

総務会議 (19.3.27) 資料 (11) 別紙2

平成19年度 教育・研究プロジェクト経費 要項 (案)

この「教育・研究プロジェクト経費」は、競争原理等が叫ばれる今日の教育・研究環境の中で、本校の教員及び技術職員（以下教職員という）の各種活動（学外資金の導入などを含む）の活性化を促しつつ、個人及びグループによる教育・研究プロジェクトの遂行を助成することを目的とする。

この経費を受けたものは、翌年度6月末において、本研究の成果報告を提出すると共に、近い将来、その成果を研究論文として然るべき学術誌等に投稿するよう努めるものとする。

教育に関する研究プロジェクト

1. 工業高等専門学校の学生に対する教育方法の改善、教育システムの改善方策など（広い意味での学生指導を含む）に関する調査・研究。抽象的な研究でなく、その研究成果が出来る限り具体的な形で、実際の教育法などの改善に繋がりうるものが好ましい。
2. 本校教職員の個人あるいは数人（2～3人程度）のグループによる研究。
3. 応募提出書類

別紙申請書に研究題目、担当者（代表者、分担者）、並びに研究の目的・意図、研究計画、研究の方法、研究の効果、何をどこまで明らかにするのかなどをわかりやすく簡潔に記し、A-4版用紙3～4枚程度に纏めること。

なお、研究経費（10～80万円程度）については、希望金額を記すと共に、その概ねの用途の予定を記すこと。

研究に関するプロジェクト

1. 工業技術開発（応用研究）あるいは技術開発のための基礎的研究（文科系の教員にあつては必ずしも技術開発に係わるものでなくとも良い）を対象とする。その研究を発展させることによって、将来、産業界、官界との共同研究に繋がりうるものは、なお好ましい。
2. 本校教職員の個人あるいは数人（2～3人程度）のグループによる研究。
3. 応募提出書類

別紙申請書に研究題目、担当者（代表者、分担者）、並びに研究の目的・意図、研究計画、研究の方法、研究の効果、何をどこまで明らかにするのかなどをわかりやすく簡潔に記し、A-4用紙3～4枚程度に纏めること。

なお、研究経費（10～80万円程度）については、希望金額を記すと共に、その概ねの用途の予定を記すこと。

公 募：

平成19年5月7日（月）までに、上記申請書等を整えて庶務課研究協力係まで提出すること。なお、科学研究費補助金に申請した研究であるかどうかは問わないが、科学研究費補助金の交付を受けているものは、なぜさらに経費申請をする必要があるかをよく簡単に説明すること。

注意事項：この経費を謝金に充当する場合は、予め会計課総務係にご相談ください。

この経費の審査プロセスは一切公表しないが、採否決定の結果は追って学内に周知する。

（出典 総務会議 (H19.3.27) 資料）

(分析結果とその根拠理由)

本校では、教員個々の研究活動の状況や改善点を集約するような体制は組織されていないが、教育研究施設の紹介、共同研究や受託研究の申し込み方法について企業への周知、本校教員の専門分野や技術シーズ等の情報発信を地域共同テクノセンターが中心となってテクノコンプレックスが受け持っており、地域企業との産学連携を推進している。また、庶務課研究協力系の支援により、地域との研究協力に関する情報をHP等を通してPRするとともに、科学研究費補助金の採択件数増加に向けて、説明会や申請書チェック等の体制を整えている。

以上のことから、研究の目的に沿った活動を支援し、改善していく体制は整備され、機能していると判断する。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・研究者総覧パンフレットの作成と企業へのPR
- ・研究者データベースの創設と研究情報の公開
- ・地域共同テクノセンターによる技術相談、講演会の開催、外部委託事業への申請
- ・科学研究費補助金申請のための説明会と評定基準を意識した調書作成のための手引きの作成、及び内部チェック体制の充実
- ・共同研究による実践的な技術者の育成と成果の公表による還元

(改善を要する点)

該当なし

(3) 選択的評価事項Aの自己評価の概要

本校では、研究活動の目標として、1) 基礎研究と技術シーズの育成、2) 技術交流の促進と研究成果の創出、3) 外部研究資金等の導入、4) 実践的技術者の育成と研究教育への還元を挙げている。これらを実現するためにテクノコンプレックスを中心とした活動を広く行っている。地域企業との共同研究、受託研究、奨学寄附金の受け入れ等による外部資金の獲得状況や科学研究費補助金の申請件数、採択件数等からみて、教員による研究活動は活発であり、学生の研究発表やロボットコンテスト等におけるアクティビティからも、研究の成果を教育に反映するという目的に沿った活動の成果が現れている。また、本校では、教員の研究活動の状況や改善点を集約するような体制は組織されていないが、本校教員の専門分野や技術シーズ等の情報発信を地域共同テクノセンターが中心となってテクノコンプレックスが行っており、地域企業との産学連携を推進している。加えて庶務課研究協力系の支援によって地域との研究協力に関する情報をHP上で公開するとともに、科学研究費補助金の採択件数向上に向けて、説明会や申請書チェック等の体制を整備している。

以上のように、研究の目的に沿った活動を支援し、改善していく体制は、整えられている。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況は良好である。

IV 選択的評価事項B 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況

1 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」に係る目的

本校では正規課程の学生に対して、「実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材」（機構法第3条）を養成することを旨として教育活動を行っているが、同時に正規課程の学生以外に対する教育サービスも行っている。独立行政法人国立高等専門学校機構法第12条には「四 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること」とあり、その趣旨に基づき地域社会への貢献として社会のニーズに対応した教育サービスを行うことは重要である。

そこで本校における正規課程の学生以外に対する教育サービスの目標として以下の項目を掲げる。

1) 小中学生を対象とした教育サービス

教員による小中学生を対象とした出前授業や、市及び県等が主催する科学技術関連イベントへの参加を組織的かつ積極的に推進する。また、在学学生を小中学校における訪問授業の補助役として同行させ、小中学生の授業理解の補助・学習意欲の向上と同時に本校学生の学習意欲向上を図る。

2) 公開講座の充実

教員による中学生を対象とした公開講座や地域住民を対象とした多方面に渡る分野の一般教養講座を行い、中学生を含む地域住民の教養向上並びに地域文化の振興に寄与する。

3) 地域企業との連携

地域の中小企業の若年技術者の再教育を行い、地域の活性化を促進するとともに、教育研究に関する成果や本校の施設・設備を公開し、地域の産業界及び教育界にそれを還元する。

4) 研究生、聴講生及び科目等履修生の受入

正規課程の学生以外に対する教育として研修生、聴講生、科目等履修生を受入れ、学習の機会を提供して要望に応える。

2 選択的評価事項B「正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況」の自己評価

(1) 観点ごとの分析

観点B-1-①： 高等専門学校の教育サービスの目的に照らして、公開講座等の正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されているか。

(観点に係る状況)

本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスとして、(1)小中学生を対象とした教育サービス、(2)公開講座、(3)地域企業との連携、(4)研究生、聴講生及び科目等履修生の受入、を行っている。以下それぞれについて述べる。

(1) 小中学生を対象とした教育サービス

本校では、平成12年度より、電気・電子システム工学科の教員及び技術職員により「センサつきのインテリロボットをつくろう」について豊橋市商工会議所において中学生を対象とした出前講座を行っている(資料B-1-①-1)。出前授業として、平成18年度では事前に授業内容を中学校側に提示し(資料B-1-①-2)、その中から一般学科の語学に関する授業として「中学生のための口語文法入門」、「語源から学ぶ英語の歴史」の2講座(中学生対象)、自然科学に関する授業として、「金属はどのような仕組みで変形するの?」(小学生対象)を、豊田市内にある小中学校で実施している。同様に専門学科による「地盤の液状化実験」(小学生対象)、「知られざる土壌汚染の仕組み」(中学生対象)と題して、出前授業を実施している(資料B-1-①-3)。

資料B-1-①-2の実施案内には本教育サービスの目的、すなわち「国立豊田高専では、豊田市内の小・中学校における教育を支援することを目的に出前授業を実施いたします。」との記述があり、この目的の達成のために、計画や具体的な方針を定めている。本資料は、豊田市周辺の小中学校に文書で通知している。今後、通知する地域を広げていく予定である。

また、平成16年度からは市及び県等が主催する科学技術関連イベント「ものづくりなぜ?なぜ?プロジェクト」に参加し、機械工学科の学生が学生指導員となり、小中学生とのパイプ役として企業指導員を補佐し、小5～中3の学生にもものづくりを指導することにより、小中学生の授業理解の補助・学習意欲の向上と同時に本校学生の学習意欲向上が図られている(資料B-1-①-4)。

(2) 公開講座の充実

教員が中学生を対象とした公開講座や地域住民を対象とした多方面に渡る分野の一般教養講座を行い、中学生を含む地域住民の教養の向上並びに地域文化の振興に寄与している。平成16～18年度に開講した公開講座について資料B-1-①-5に示す。この中には、上述した中学生対象の豊橋市商工会議所で開催している「センサつきのインテリロボットをつくろう」もあるが、豊田市との共催により開講した講座(地域連携講座)として、平成17、18年度にはそれぞれ3講座が含まれている。なお、これらについては豊田市により、市民全世帯(約15万世帯)にカラー刷りのチラシ(資料B-1-①-6)が配布され、地域住民に対して公開講座の開催が周知された。また、豊田市からは、駅近くの利便性のよい会場の提供も受けている。

また、すべての公開講座を愛知県のWeb「学びネットあいち」に登録し、各新聞社及び各市町村広報誌に掲載を依頼している(資料B-1-①-7)。その他、本校HPに公開講座専用ページを作成し、幅広く受講生を募集している。

参照 → <http://www.toyota-ct.ac.jp/~jimu/syomu/gakusyuu/home.htm>

平成16年度豊田工業高等専門学校公開講座

「 受 講 の 案 内 」

ーマイコンロボットの製作とロボットコンテストー

このたびは、本校の公開講座にお申込みいただき誠にありがとうございます。

抽選を行った結果、貴方がご当選されましたので、通知申し上げます。

ついては、下記の事項にご留意いただき、受講願います。

また、当日は事故のないようにご注意いただき、ご来校されることをスタッフ一同心からお待ち申し上げます。

記

1. 開催日初日に下記にて受付を行い、受講料をお支払いください。

- (1) 日 時

- 7月27日(火) 9時40分までに

- (2) 場 所

- 豊田工業高等専門学校「一般学科・管理棟」1階 庶務課受付窓口

(別紙1)

- (3) 当日持参いただくもの

- ① 受講料 4,600円

- (内訳：講習料2,100円+教材費2,500円)

- ② 同意書(別紙2)

- ※保護者のサイン忘れがないか確認願います。

- ③ 文房具等受講に必要なもの及び昼食・飲物は各自で準備願います。

2. 開催日の2日目は直接、会場(電気・電子システム工学科2階電気電子工学実験室)へご集合ください。場所は開催日初日に案内します。

- なお、初日同様に文房具等受講に必要なもの及び昼食・飲物は各自で準備願います。

3. 豊田高専へのアクセス及び駐車場について

- (1) 地図(別紙1)を参考にご来校ください。

- (2) 車での送迎スペースはございます。

- なお、周辺道路への駐停車はご遠慮ください。

4. 欠席される場合について

- 諸般の事情により欠席される場合は、開催時間の30分前までに庶務課までご連絡ください。

※ また、本公開講座への申込みに見覚えがない場合もご一報ください。

豊田高専庶務課 0565-36-5828

(出典 生涯学習委員会資料)

資料B-1-①-2

平成18年度 小・中学校出前授業 実施案内

国立豊田高専では、豊田市内の小・中学校における教育を支援することを目的に出前授業を実施いたします。総合学習等で希望される授業がメニューにごございましたら、選んでお申込みいただくと、本校教員が授業に出向きます。

1) メニュー

「平成18年度国立豊田高専出前授業一覧」を参照してください。

2) 対象

小学生4年生以上及び中学生

3) 申込方法

(1) 出前授業を希望される場合は、Eメール、または電話、FAXで、希望される授業テーマの担当教員と内容、実施日程等について事前打合せを行ってください。連絡先は出前授業一覧に掲載されています。教員との連絡が取りにくい場合は、下記の間合せ先まで連絡願います。

(2) 実施日程等の打合せ後、別紙「出前授業申込書」に記入し、下記の間合せ先まで送付願います。

4) 受付開始

平成18年7月5日(水)から

(出典 学生課資料)

資料B-1-①-3

平成18年度 出前授業申込一覧

番号	出前授業日時		本校担当教員		申込機関	授業番号	授業テーマ	申込日
	出前授業日	時間	学科	氏名				
1	8月25日(金)	10:00~11:00	一般学科	柏谷賢治	豊田市立四郷小学校	5	金属はどのような仕組みで変形するの？	8月7日
2	8月30日(水)	10:00~11:00	環境都市工学科	伊東 孝 小林 睦	豊田市立四郷小学校	18	地盤の液状化実験	8月7日
3	9月16日(土)	9:00~12:00	環境都市工学科	山下清吾 松本嘉孝	豊田市立下山中学校	19	知られざる土壤汚染の仕組み	8月9日
4	11月11日(土)	8:30~10:00	一般学科	松浦由起	豊田市立 梅坪台中学校	2	中学生のための口語文法入門	11月2日
5	11月11日(土)	8:30~10:00	一般学科	神谷昌明	豊田市立 梅坪台中学校	3	語源から学ぶ英語の歴史	11月2日

(出典 学生課資料)

平成19年度 ものづくりなぜ?なぜ?プロジェクト 自動車チーム
豊田工業高等専門学校 学生指導員募集要項

1 募集人員

6人以内

※1活動日に3人の参加が必要なため、6人の場合は2人1組のペアとなり、実施します。希望者が募集人員に満たない場合、毎週参加していただく場合もあります。

※リーダーになっていただける方（緊急の連絡等を他のメンバーに伝えてもらう責任者）を1名選出する予定です。

2 参加要件

- ・平成19年4月に本科4年生または5年生となる方
- ・試験期間中及び学校行事以外は、必ず参加できる方
- ・自動車、ものづくりが好きな方
- ・子どもとふれあうことが好きな方

3 学生指導員としての役割

- ・子ども（小5～中3）が行う古い車（パブリカを予定）の修復作業を指導
- ・夢の自動車づくり支援（子どもがデザインした車の製作）
- ・子どもと企業指導員（トヨタ自動車等13社参加）とのパイプ役

4 活動期間・日時

平成19年4月～平成20年3月

土曜日午前9時～午後4時（月3回程度、年間36回程度）

5 活動場所

財団法人あすて 豊田市本町本竜43 TEL0565-52-0362

6 参加費用

年間500円（施設使用料としてお支払いをお願いします。）

7 傷害保険

プロジェクト事務局で加入します。

（保険金：死亡1,300万円、後遺障害1,300万円まで、
入院（1日につき）7,000円、通院保険（1日につき）4,500円、
賠償責任5億円まで）

加入費用はプロジェクト事務局で負担します。

8 服装

作業着としてつなぎ及び帽子を事務局で用意いたします。

9 食事（昼食）

ご希望の方は、「あすて」にて準備できます。（1食200円～300円）

10 申し込み方法、期限

学生指導員募集要項及び申込用紙は学生課教務係にありますので、必要事項を記入し、3月9日（金）までに学生課教務係へご提出ください。

11 最初の活動日（はじめの式）

平成19年4月7日（土）午前8時50分に「あすて」に集合
1年間の活動内容を説明いたします。

学生指導員の担当プロジェクト等の最終決定を予定しています。

12 その他

謝金等はありませんので、ボランティア活動となります。

学科によって特別単位（ボランティア単位）になる場合がありますので、指導教員に相談してください。

【プロジェクトに関する問い合わせ】

ものづくりなぜ？なぜ？プロジェクト事務局 豊田市役所 生涯学習課

担当：松本、加藤

TEL：0565-34-6660 FAX：0565-31-5870

〒471-8501 豊田市西町3-60

Eメール：s_gakushu@city.toyota.aichi.jp

(出典 庶務課資料)

資料B-1-①-5

平成16～18年度に開講した公開講座

平成16年度公開講座実施予定一覧

担当	講座名	実施場所	対象者	募集人員	時期	時間帯	時間数	新規継続	
一般学科	戦国軍記『武功夜話』を読む(1)(2)	学内	市民一般 (特に制限しない)	20	(1)7/18 (2)7/25 (両日で1講座)	13:00～15:00	4	新規	
機械学科	メカワールド体験講座	学内	中学生	18	8/2～8/3	10:00～16:00	10	継続	
電気・電子システム工学科	マイコンロボットの製作とロボットコンテスト	学内	中学生	30	7/27～7/28	10:00～16:00	10	新規	
電気・電子システム工学科	センサつきのインテリロボットをつくろう(簡単な電子回路工作) 豊橋市出前講座	豊橋市商工会議所	中学生	30	7/30	10:00～16:00	5	継続	
環境・都市工学科	東海地震！自分だけは大丈夫？ GPSで見る地震の起こるメカニズムと振動実験	学内	中学生	20	8/2	10:00～16:00	5	新規	
情報工学科	プログラム(C言語)によるマイコン制御にチャレンジ！	学内	中学生	15	8/4, 8/5	10:00～16:00	10	新規	
建築学科	揺らしてわかる木造住宅の耐震診断法(1)(2)	学内	市民一般 (満18歳以上)	20	(1)7/17 (2)7/24 (両日で1講座)	13:00～16:00	6	継続	
建築学科	パソコンで夢いっぱい空間をつくろう	学内	中学生	20	7/27～7/28	10:00～16:00	10	新規	
マル情	パソコン(Windows/Linux)のインストールとネットワークの構築(1)(2)	学内	市民一般 (満18歳以上)	15	(1)8/28 (2)9/4 (両日で1講座)	10:00～16:00	10	新規	
計 9講座				55					

※ 出前講座：「センサつきのインテリロボットをつくろう」(豊橋市商工会議所)

平成17年度公開講座実施予定一覧(決定)

担当	講座名	実施場所	対象者	募集人員	時期	時間帯	時間数	講習料	教材費	合計
一般学科	絵解きで習う英会話	校内	一般 (中学生以上)	30	8/22~8/26	10:30~12:00	7.5	6,200 (中学生は1,000円)	1,000	7,200 (中学生は2,000円)
	【豊田市共催 地域連携講座】 戦国軍記『武功夜話』を読む -木下藤吉郎の登場- 一福生合戦における薬田勝家-	豊田市駅周辺公共施設	一般 (中学生以上)	25	10/16,10/23 (両日で1講座)	13:00~15:00	4	2,000	0	2,000
機械工学科	メカワールド体験講座	校内	中学生	18	7/25~7/26	10:00~16:00	10	1,000	0	1,000
電気・電子システム工学科	マイコンロボットの製作とロボットコンテスト	校内	中学生	30 (2人1組)	7/26~7/27	10:00~16:00	10	1,000	0	1,000
	【出前講座】 センサつきのインテリロボットをつくらう(簡単な電子回路工作)	豊橋商工会議所	中学生	20	7/28	10:00~16:00	5	1,000	2,200	3,200
	ハリーポッター第6巻は英語で読もう! めざせ100万語英文多読入門	校内	一般 (中学生以上)	10	8/9~8/11	13:00~16:00	9	6,200 (中学生は1,000円)	1,890	8,090 (中学生は2,890円)
	【豊田市共催 地域連携講座】 ハリーポッター第6巻は英語で読もう! めざせ100万語英文多読体験	豊田市駅周辺公共施設	一般 (中学生以上)	20	10/15,10/22 (両日で1講座)	13:00~16:00	6	2,000	1,890	3,890
情報工学科	プログラム(C言語)によるロボット制御にチャレンジ!	校内	中学生	15	8/3~8/4	10:00~16:00	10	1,000	0	1,000
環境都市工学科	ブリッジコンテスト(橋の模型を作ってみよう)	校内	中学生	20	8/3	10:00~16:00	5	1,000	0	1,000
建築学科	パソコンで夢の空間を創ろう! -3D描画ソフトで挑戦-	校内	中学生	15	7/28~7/29	10:00~16:00	10	1,000	0	1,000
	【豊田市共催 地域連携講座】 木造住宅の耐震安全性の真実 ~分かっていること・未だ分からないこと~	豊田市駅周辺公共施設	一般 (中学生以上)	20	12/3,12/10 (両日で1講座)	13:00~16:00	6	2,000	0	2,000
マルチメディア情報教育センター	パソコン(Windows)ネットワークの構築とウイルス対策	校内	一般 (満18歳以上)	15	8/27,9/3 (両日で1講座)	10:00~16:00	10	6,200	2,000	8,200

平成18年度公開講座実施予定一覧(申請)

担当	講座名	実施場所	対象者	募集人員	時期	時間帯	時間数	締切	受講料
電気・電子システム工学科	マイコンロボットの製作とロボットコンテスト	学内	中学生	30 (2人1組)	7/25(火) 7/26(水)	10:00~16:00	10	7/11 (火)	1,000
情報工学科	プログラム(C言語)によるマイコン制御にチャレンジ!	学内	中学生	15	7/27(木) 7/28(金)	10:00~16:00	10	7/13 (木)	1,000
環境都市工学科	わかりやすいコンクリートの話	学内	中学生	20	7/31(月)	10:00~16:00	5	7/18 (火)	1,000
機械工学科	メカワールド体験講座	学内	中学生	18	8/1(火) 8/2(水)	10:00~16:00	10	7/18 (火)	1,000
建築学科	パソコンで夢の空間を創ろう! -3D描画ソフトで挑戦-	学内	中学生	15	8/3(木) 8/4(金)	10:00~16:00	10	7/20 (木)	1,000
電気・電子システム工学科	ハリーポッター第7巻は英語で読もう! めざせ100万語英文多読入門	学内	一般 (中学生以上)	10	8/7(月) ~8/9(水)	13:00~16:00	9	7/24 (月)	中学生以外3,630 (中学生は1,630) (テキスト代631含む)
一般学科	近世史料に見る山内一豊 -内助の功- 戦国軍記『武功夜話』における山内一豊 -山内猪右衛門のこと-	豊田市内公共施設	一般 (中学生以上)	25	8/26(土) 8/27(日)	10:30~12:30	4	8/14 (月)	中学生以上2,000 中学生1,000
マルチメディア情報教育センター	Windowsネットワークの構築とセキュリティ対策(初・中級編)	学内	一般 (満18歳以上)	10	8/26(土) 9/2(土) (両日で1講座)	10:00~16:00	10	8/14 (月)	3,764 (テキスト代1,764含む)
一般学科	絵解きで習う英会話	豊田市内公共施設	一般 (中学生以上)	20	8/28(月),8/30 (水)~8/31 (木),9/3(日)	10:30~12:00 9/3のみ 10:30~12:00, 13:00~14:30	7.5	8/14 (月)	中学生以外5,000 (中学生は2,000) (教材費1,000含む)
電気・電子システム工学科	ハリーポッター第7巻は英語で読もう! めざせ100万語英文多読体験	豊田市中 央図書館	一般 (中学生以上)	20	10/21(土) 10/28(土) (両日で1講座)	13:00~16:00	6	10/6 (金)	2,630 中学生1,630 (テキスト代630含む)
電気・電子システム工学科	センサつきのインテリロボットをつくらう (簡単な電子回路工作)	豊橋商工会議所	中学生	20	7/28(金)	10:00~16:00	5	7/14 (金)	3,200 (教材費2,200含む)

(出典 生涯学習委員会資料)

生涯学習情報紙 平成18年9月15日号

学being!



豊田市高等教育機関 地域連携講座 国立豊田工業高等専門学校

ハリーポッター第7巻は英語で読もう! めざせ100万語英文多読体験



100万語英文多読は、学習者が各自の好みや英語力に合わせた易しい英文図書を自立的に読み進めることで楽しく英語運用能力を向上させることが可能な英語学習法です。今回、実際に多読活動を体験することで幅広くその可能性を感じてもらうことができます。中学卒業(英検3級)程度の英語学習体験があれば、スムーズに始めることができます。

(ただしHarry Potterを翻訳しながら読む講座ではありませんのでご注意ください)



「めざせ1000万語英語多読完全ガイド」共編者

講師 国立豊田工業高等専門学校 電気・電子システム工学科 西澤 一 教授

にしざわ ひとし

日時 平成18年10月21日(土)・28日(土)2日間とも13時~16時

開催場所 豊田市中央図書館 6階 多目的ホール(豊田市西町1-200 とよた参考館内)

定員 20名

参加費 2,630円 ※中学生は1,630円(いずれも教材費630円含む)

申込方法

はがき・FAX・Eメールでお申込ください。※電話不可

- ①希望講座名 ②氏名(ふりがな) ③年令 ④性別
⑤郵便番号 ⑥住所 ⑦電話番号 ⑧FAX番号(お持ちの場合のみ)

申込先

〒471-8525 豊田市栄生町2-1 国立豊田工業高等専門学校 庶務課
F A X 0565-36-5930
Eメール koukai@toyota-ct.ac.jp

申込期限

平成18年10月6日(金)

その他

募集人数を超えた場合は抽選を行います。抽選結果につきましては、各講座の申込締切日以降に本校から通知させていただきます。また、講座の案内(手続き方法、地図等)を後日お送りいたします。

問合せ先

同校庶務課 電話:0565-36-5828
(平日8:30~12:15、13:00~17:15)

(出典 地域連携講座カラーチラシ)

広報等の実施について

【資料3】

I. 広報の方法（パンフ＋ポスター＋ITの活用）

区 分	平成18年度（平成17年度に準ずる）	
1. パンフレットを配布 ○中学校 ・豊田市近郊101校 (豊田、近郊三河、瀬戸、春日井東部、名古屋緑区、天白区等) ・豊橋市近郊52校(豊橋市開催講座)	一般対象講座（満18歳以上）	左記以外の講座
		1,000部/講座 (近郊は増、遠方は減で調整)
○豊田市内公共施設 36施設 (市民文化会館、コミュニティセンター、交流館、公民館、中央図書館等)(豊橋市開催講座以外の講座)	400部/講座 1施設につき平均10部程度 (図書館は40-50部) 更に上記にプラス T-FACE 40部程度	400部/講座 1施設につき平均10部程度 (図書館は40-50部)
○各報道機関 掲載を依頼	ー豊田市内で開催される講座ー 朝日、毎日、中日、読売、新三河タイムズ、東海愛知新聞社、東海タイムズ、矢作新報社、ひまわりネットに各1部 ー豊橋市内で開催される講座ー 朝日、中日、東海日日新聞社、東愛知新聞社、豊橋市記者クラブに各1部	
○実施学科に送付、庶務課窓口備え付け用予備	残数調整	
合 計	中学生対象講座	1,500部×5講座
	豊橋出前講座(中学生)	1,100部×1講座
	一般対象講座(中学生以上)	1,500部×1講座
	一般対象講座(満18歳以上)	500部×1講座
	地域連携講座	各校等若干数×3講座
	※地域連携講座のパンフレットについては、基本的には豊田市に依存する。 (豊田市広報の折り込みチラシ(カラー版の予定)を豊田市が全世帯に配布するため。)	
	計	10,600部程度(地域連携講座除く)
2. ポスターを配布 ○パンフに同封し送付 (H17年度に新規実施)	A3版 カラー 500部 ・豊田市内中学校 1クラス1枚 計377枚 ・豊田市近郊中学校 1校1枚 計75枚 ・豊田市公共施設、報道関係 1機関1枚 ・豊橋市開催講座は報道関係のみに送付	
2. IT活用 ○愛知県の情報網を活用	◎ITを活用した広報を強化する。 学びネットあいちに情報登録	
○本校のホームページに公開講座専用のページを作成する。	HP内で公開講座の内容や申込方法、昨年の実施の様子等を紹介する。(パンフ・ポスターにURLを公開)	

(出典 生涯学習委員会資料)

(3) 地域企業との連携

地域の中小企業の若年技術者の再教育を行い、地域の活性化を促進するとともに、教育研究に関する成果や本校の施設・設備を公開し、地域の産業界及び教育界にそれを還元している。これらについては、選択的評価事項A観点A-1-②に平成18年度経済産業省「高専を活用した中小企業人材育成」委託事業に関する記述があるように、本校では、「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」を立ち上げ、「匠の技術から学ぶものづくり」、「製造技術者のための基礎設計技術」、「製造技術者のためのデジタル技術」、「技術者の素養を磨くスキルアップ講座」と題して、各講座定員20名からなる講座を開いた（資料B-1-①-8）。また、平成19年度には文部科学省「地域再生人材創出拠点の形成」プロジェクトに「伝統・先端技術融合による創造的人材創出」というユニット名で申請を行っている（資料B-1-①-9）。さらに豊田市が策定している「豊田市産業振興策V25プラン」においても、本校との連携による地域企業の人材育成が期待されている。

(4) 研究生、聴講生及び科目等履修生の受入

本校は、正規課程の学生以外に対する教育として研究生、聴講生、科目等履修生を受入れ、学習の機会を提供している。資料B-1-①-10～12にそれぞれの規程を示す。また、資料B-1-①-13に研究生募集要項を示す。なお、過去3年間の受け入れ状況を資料B-1-①-14に示す。

平成 18 年度 経済産業省《高専等を活用した中小企業人材育成》委託事業

「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」

受講者募集



【開講講座】

講座名	開講期間	申込締切日
①「匠の技術から学ぶものづくり」 【水曜日】18:00～20:00（10回）	平成18年9月13日 ～11月15日	平成18年8月28日(月)
②「製造技術者のための基礎設計技術」 【水曜日】18:00～20:00（10回）	平成18年11月22日 ～平成19年2月7日	平成18年11月6日(月)
③「製造技術者のためのデジタル技術」 【火曜日】18:00～20:00（10回）	平成18年10月10日 ～12月12日	平成18年9月25日(月)
④「技術者の素養を磨くスキルアップ講座」 【土曜日】9:30～11:30（10回）	平成18年10月21日 ～平成19年1月20日	平成18年10月2日(月)

※ 募集人数：各講座20名（定員になり次第締め切ります。）

複数の講座を受講していただいて結構です。

管理団体：豊田商工会議所

実施機関：独立行政法人国立高等専門学校機構

豊田工業高等専門学校

「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」

研 修 講 座 受 講 要 項

■ 《事業概要》

中小企業製造現場の若手技術者・技能者を主な対象とした人材育成プログラムです。講義に加え実験・実習などの実技と共に、グループ討論・企業研修などを織り込み、受講者が身をもって体験しながら学ぶことができるプログラムを目指しています。

■ 《受講対象者》

中小企業製造現場の若手・初学技術者・技能者、技術者を狙っている従業員
専門知識の幅（機械系技術者でデジタル技術など）を広げたい技術者

■ 《募集人数》

各講座とも 20 名

■ 《受講料》

無料（ただし、各講座とも全期間ご参加いただきます。）

なお、協力機関への交通費、実習・実験等に係る保険費用は自己負担です。



■ 《研修会場》

各講座とも、「豊田高専地域共同テクノセンター」で実施します。

（ただし、特別講演、企業研修、技術研修を除く。）

（１）講座研修会場：

豊田高専 地域共同テクノセンター（〒471-8525 豊田市栄生町 2-1）

TEL：（0565）36-5941（橋本）、FAX：（0565）36-5930

（２）特別講演会場：

豊田商工会議所（〒471-8506 豊田市小坂本町 1-25）

TEL：（0565）32-4594（鷺見）、FAX：（0565）34-1777

（３）企業研修会場：

（株）デンソー技研センター（〒446-8507 安城市高棚町新道 1）

（株）デンソー 高棚製作所（〒446-8507 安城市高棚町新道 1）

TEL：（0566）73-2612（村田）、FAX：（0566）73-2965

（４）技術研修会場：

愛知県産業技術研究所（〒448-0003 刈谷市一ツ木町西新割）

TEL：（0566）24-1841（高須）、FAX：（0566）22-8033

■ 《受講修了》

受講修了者（出席率 70%以上）には、受講者及び派遣企業に「修了証書」を授与します。

また、優秀者には「優秀証書」を授与します。

（出典 平成 18 年度経済産業省「高専を活用した中小企業人材育成」委託事業パンフレット抜粋）

文部科学省「地域再生人材創出拠点の形成」プロジェクト

(様式4-1)

提案書
(地域再生人材創出拠点の形成)

1. 提案構想

地域再生人材養成 ユニット名	伝統・先端技術融合による創造的人材創出
人材養成ユニット 設置予定機関・場所	独立行政法人国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校 〒471-8525 愛知県豊田市栄生町2-1
実施予定期間	平成19年7月～平成24年3月まで
実施予定規模	【直接経費】初年度：37百万円、総額：186百万円 【間接経費】初年度：11百万円、総額：56百万円 【合計】初年度：48百万円、総額：242百万円
提案機関名 総括責任者名	独立行政法人国立高等専門学校機構 豊田工業高等専門学校 校長 末松 良一
連携する 自治体の名称	愛知県、豊田市
課題の概要 (200字以内)	中小企業の意欲的な技術者および高専学生を対象に地域先進企業、愛知県産業技術研究所の協力を得て豊田高専を拠点に「産官学」の三者が一体で「ものづくり人材創出」拠点を形成していく。技術者と学生のプロジェクトチームを中心に伝統・匠の技術、異分野・先端技術の融合を図り、産官学による共同教育(CO-OP)により、独創的な生産システム開発に取り組んでいく「実学と工学」のバランスのとれた創造的技術者・学生を養成する。

(出典 プロジェクト申請書抜粋)

豊田工業高等専門学校研究生規程

制 定 昭和61年 4月 1日
最終改正 平成16年 5月11日

(趣旨)

第1条 豊田工業高等専門学校学則第49条の規定に基づく研究生に関する事項は、この規程の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 研究生として入学することができる者は、高等専門学校を卒業した者又は本校がこれと同等以上の学力があると認めた者とする。

(入学出願手続)

第3条 研究生として入学を志願する者は、入学願書、履歴書及び別に定める書類に検定料を添えて、所定の期日までに校長に願出しなければならない。

(入学者の選考)

第4条 入学者の選考は、前条の志願者について、別に定めるところにより行う。

(入学許可)

第5条 校長は、前条の規定により選考された者で所定の期日までに入学料を納付した者に、入学を許可する。

(指導教員)

第6条 研究生は、校長の指定する指導教員の下に研究に従事しなければならない。

(在学期間等)

第7条 研究生の在学期間は、1年以内とし、その入学時期は、学年の始めとする。ただし、やむを得ない事情があると認められるときは、学年の中途において入学を許可することができるものとし、この場合における在学期間は、当該入学の属する年度の末日までとする。

2 研究上の必要により、在学期間を更新して研究を継続しようとする者は、指導教員を経由して、校長の許可を受けなければならない。

(研究費)

第8条 研究に要する費用は、特に定めるもののほか、研究生の負担とする。

(他の業務への従事)

第9条 研究生が他の事業等の業務に従事しようとするときは、指導教員を経由して、校長の許可を受けなければならない。

(退学)

第10条 研究生が退学しようとするときは、その理由を付し、校長に願出しなければならない。

(研究報告)

第11条 研究生は、その研究を終了したときは、指導教員を経由して、研究報告書を校長に提出しなければならない。

(授業料等の額)

第12条 検定料、入学料及び授業料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則第13条の定める額とする。

(出典 規則集抜粋)

豊田工業高等専門学校聴講生規程

制 定 昭和61年 4月 1日
最終改正 平成16年 5月11日

(趣旨)

第1条 豊田工業高等専門学校学則の規定に基づく聴講生に関する事項は、この規程の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 聴講生として入学することのできる者は、高等学校を卒業した者又は本校がこれと同等以上の学力があると認めたとする。

(入学出願手続)

第3条 聴講生として入学を志願する者は、入学願書、履歴書及び別に定める書類に検定料を添えて、所定の期日までに校長に願出しなければならない。

(入学者の選考)

第4条 入学者の選考は、前条の志願者について、別に定めるところにより行う。

(入学許可)

第5条 校長は、前条の規定により選考された者で所定の期日までに入学料を納付した者に、入学を許可する。

(入学の時期)

第6条 聴講生の入学の時期は、毎学期の始めとする。ただし、特別の事情がある者については、この限りでない。

(単位修得の取扱い)

第7条 聴講した授業科目の単位修得の認定は、これを行わない。

(授業料等の額)

第8条 検定料、入学料及び授業料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則第13条の定める額とする。

(授業料の納付)

第9条 授業料は、聴講科目の単位数に応じて入学を許可した月に納付しなければならない。

(既納の授業料等)

第10条 既納の検定料、入学料及び授業料は、還付しない。

(準用規定)

第11条 この規程に定めるもののほか、豊田工業高等専門学校学則及びこれに基づく諸規則の規定は、聴講生に準用する。

(雑則)

第12条 この規程の実施に関し必要な事項は、校長が定める。

(出典 規則集)

豊田工業高等専門学校科目等履修生規程

制 定 平成16年 4月 1日

(趣旨)

第1条 豊田工業高等専門学校学則第51条の2の規定に基づく科目等履修生に関する事項は、この規程の定めるところによる。

(入学資格)

第2条 科目等履修生として入学することのできる者は、中学校を卒業した者又は本校がこれと同等以上の学力があると認めた者とする。

(入学出願手続)

第3条 科目等履修生として入学を志願する者は、入学願書、履歴書及び別に定める書類に検定料を添えて、所定の期日までに校長に願い出なければならない。

(入学者の選考)

第4条 入学者の選考は、前条の志願者について、別に定めるところにより行う。

(入学許可)

第5条 校長は、前条の規定により選考された者で所定の期日までに入学料を納付した者に、入学を許可する。

(入学の時期)

第6条 科目等履修生の入学の時期は、毎学期の始めとする。ただし、特別の事情がある者については、この限りではない。

(在学期間等)

第7条 在学期間は、入学を許可された年度内とする。ただし、引き続き在学を希望する者は、所定の期日までに校長に願い出て許可を受けなければならない。

(履修可能単位数)

第8条 履修可能単位数は、1年間10単位までとする。

(単位認定)

第9条 単位認定は、豊田工業高等専門学校授業科目の履修、単位の修得、進級及び卒業等の認定に関する規程第3条の規定を準用する。

(単位修得証明書)

第10条 認定された単位については、本人の請求により単位修得証明書を交付する。

(授業料等の額)

第11条 検定料、入学料及び授業料の額は、独立行政法人国立高等専門学校機構における授業料その他の費用に関する規則に定める額とする。

(授業料の納付)

第12条 授業料は、科目等履修科目の単位数に応じて入学を許可した月に納付しなければならない。

(既納の授業料等)

第13条 既納の検定料、入学料及び授業料は、還付しない。

(出典 規則集抜粋)

平成19年度豊田工業高等専門学校研究生募集要項

豊田工業高等専門学校
〒471-8525 豊田市栄生町2の1
TEL(0565)36-5912 (学生課代表)

本校において、特定の専門事項について研究しようとする者は、選考のうえ、研究生として入学を許可する。

1. 入学資格

高等専門学校を卒業した者又は本校がこれと同等以上の学力があると認めたる者

2. 出願期間

前学期：平成19年3月 5日(月)～3月 9日(金) 9時～12時まで

後学期：平成19年9月 3日(月)～9月 7日(金) 9時～12時まで

3. 在学期間

在学期間は、1年以内とし、入学時期は学期の始めとする。ただし、研究上の必要により在学期間を更新して研究を継続することができる。

4. 出願書類(各1通)

- (1) 研究生入学願書(本校所定のもの)
- (2) 履歴書(本校所定のもの)
- (3) 最終出身校の卒業証明書, 又は卒業見込み証明書(本校卒業生は不要)
- (4) 勤務先所属長の承諾書(企業等に在職のまま入学を志望する者のみ。)
- (5) その他本校が指定する書類

5. 出願手続

出願を希望する者は、予め指導教員の承諾を得たうえ、提出書類を出願期間内に学生課教務係へ直接持参すること。入学検定料は、「振込依頼票(兼手数料入金伝票明細票)」により、出願期間内に4,900円を振り込むこと。

6. 選考方法及び合格通知

研究生の選考は、書類審査及び面接により行う。

選考の結果は、決定次第本人あて通知する。

7. 入学料について

「振込依頼票(兼手数料入金伝票明細票)」により、所定の期日までに25,100円を振り込むこと。

8. 入学手続

合格通知を受けた者は、前学期は4月6日(金)、後学期は10月4日(木)の9時から12時までに、誓約書(本校所定のもの)、その他本校が指定する書類に振込金(兼手数料)受領書を添えて、入学手続を行うこと。

授業料については、別紙「振込依頼票(兼手数料入金伝票明細票)」により前学期は4月末、後学期は10月末までに振り込むこと。

9. その他

既納の入学検定料、入学料及び授業料は、還付しない。

(出典 学生課資料)

資料B-1-①-14

過去3年間の研究生受入れ状況

年 度	受講生	指導教員	研 究 課 題
平成 16 年度	男A	犬塚勝美	車椅子の電動化装置の製作
	男B	荻野 弘	2列潜堤の設置規模と破波の規模の関係
	男C	忠 和男	縦リブ補強による既設円筒鋼製橋脚の関係
平成 17 年度	男D	三島雅博	日本建築史の研究
平成 18 年度	男E	早坂太一	心理物理実験用プログラムの開発
	男F	伊藤 孝	木曾川の水制群について
	男G	荻野 弘	植樹帯による道路交通騒音低減効果に関する研究

(出典 学生課資料より作成)

(分析結果とその根拠理由)

本校では「小中学生を対象とした教育サービス」として出前授業を、また「公開講座」が中学生や地域住民を対象として実施されている。「地域企業との連携」では「高専を活用した中小企業人材育成」委託事業が行われており、「研究生、聴講生及び科目等履修生の受入れ」については制度として学習の機会を提供している。このように本校では、正規課程の学生以外に対する教育サービスが計画的に実施されている。

観点B-1-②： サービス享受者数やその満足度等から判断して、活動の成果が上がっているか。また、改善のためのシステムがあり、機能しているか。

(観点到に係る状況)

地域共同テクノセンターを中心とした平成 18 年度経済産業省「高専等を活用した中小企業人材育成」委託事業においては、選択的評価事項A観点A-1-②にもあるように、地元企業 29 社、延べ 97 名の受講者が参加した。受講者に対するアンケート結果では、事前のパンフレット及びコーディネーターによる事前説明で講座の意図、内容並びにレベルについて理解が得られていたことから、講座全体の評価は 75～90%と高く、派遣企業の理解も得られていたこともあり、事業の成果は上がったと考えられる。次年度以降の改善については、例えば土曜日開催については、企業側の各種行事等により、参加が困難という指摘がなされた(資料B-1-②-1)。

続いて、公開講座に関しては、過去3年間の受講者の推移と充足率は以下のとおりである。いずれの年度も全体では 100%を超える充足率であるので、順調に受講生を確保していることが示される(資料B-1-②-2)。

公開講座の充実ということで具体的な目標として挙げている「教員による中学生を対象とした公開講座や地域住民を対象とした多方面に渡る分野の一般教養講座を行い、中学生を含む地域住民の教養向上並びに地域文化の振興に寄与する」という点では、中学生が積極的に参加できるような内容としたことにより、平成 16～18 年度それぞれの年度で 100 名以上の参加者を得た。なお、一般の参加者を加えると 200 名以上となることが多い。

また、生涯学習委員会の決定に基づき平成 17 年度から、本校の公開講座の受講風景を説明付きでインターネット上で公開及び平成 18 年度から中学生対象講座を中心に「中学生のみなさんへ」を配布し、学校紹介等を行うなど入学生（受験生）確保の一助を担っている。

次に、受講生に対するアンケート調査に関しては、平成 16 年度から公開講座を受けての感想や今後の希望などを調べている。それによると、概ね満足を得ていることが示されていることから、公開講座の成果が上がっているといえる（資料B-1-②-3）。

なお、受講後のアンケート結果によると、中学生の満足度は、一般よりも幾分高い傾向が伺える。

これらアンケート調査の結果は生涯学習委員会（資料B-1-②-4）で報告され、公開講座担当者が次年度の公開講座に反映させるように努めている。また、より充実した教育サービスを目指すために、自由記述のアンケート調査も実施している。その中で講師が今後の改善へと役立てた一例として、資料B-1-①-5の一般向けの公開講座のひとつである「絵解き英文法」では、平成 17 年度において「中級・上級の文法を望む」、「このような講座をもっと長い期間でやっていただきたい」という希望があり、翌平成 18 年度では、これまでの初級レベルから文法の達成目標を中級の内容も加えるなどの改善を行っている。しかしながら、改善したことにより資料B-1-②-5の平成 18 年度のアンケートでは、「絵解き英文法」は、23 人中、4 名が「あまり満足できなかった」と回答している。また、講座の期間については、7.5 時間と他の講座に比べても長いにもかかわらず、さらなる開講時間を求めていることなども今後の検討すべき材料である。このようにアンケート結果を踏まえ、次年度の講座の内容を検討するというシステムが機能しているといえる。

なお、平成 17 年度より実施された出前授業（資料B-1-①-3）に関する受講生の意見聴取の状況については、講師が簡単な感想を受講者に求める程度であった。その中で報告されているものとして、「地盤の液状化実験」では、「液状化が起こったときの構造物の被害状況がよくわかった」という感想があった。また、「知られざる土壤汚染の仕組み」では、「普段使用できない専門的な実験機器を使って実験ができてよかった」、「土がいろいろな役割を果たしていることがわかって勉強になった」などの感想があった。訪問先の中学校の事情等もあり、今後詳細なアンケート調査をすべきかどうか検討の余地がある。

平成 16 年度から公開講座で実施しているアンケート調査での意見等は生涯学習委員会で報告しているが、次年度の公開講座の受講生は当該年度の受講生と異なるため、アンケート結果を次年度の公開講座に反映しても、必ずしも改善に結びつかない例も出てくる。この点は、本校公開講座における問題点として挙げられる。また、近年の公開講座をみると新しい企画は少なく、充足率のかんばしくない公開講座もあり次年度以降に内容的に改善するなどの処置が望まれるところである。

また、工夫した点としては、すべての講座において受講生確保に力を入れるために、応募方法を変更したことが挙げられる。従来は本校指定日（平日）に事前に来校して、申込みを行い、受講料を支払うという手続きであったが、より簡素化し来校不要な申込方法（Eメール、FAX、郵送のいずれか）とし、受講日初日に受講料を支払うという手続きに変更した。また、これまでも各学科がチラシを用意していたが、平成 17 年度からは全講座共通の書式にするなどの改良を加えた。さらに、研究協力係で全体のポスターを作成し、中学校や地域の公民館（豊田市では、交流館やコミュニティセンターという名称）など 150 機関以上に配布した。さらに申し込みに関しては、平成 16 年度から個人単位での申込みに加えて、各中学校が取り纏めて申込みができるように中学校専用 FAX 申込用紙を作成し、申し込み手続きをより簡略化した。こうした細かな改善が、生涯学習委員会及び庶務課研究協力係を中心として行っており、改善のためのシステムが機能した例として挙げられる。

経済産業省「高専等を活用した中小企業人材育成」委託事業プログラム事業報告（抜粋）

目標と実績

■目標について：

ものづくり創造立国の中核地域である豊田地域においても、産業構造の急激な変化に伴い「新技術・新産業」に対応する若年技術者不足、取り分け団塊世代の大量退職による技術・技能の伝承が大きな課題である。

地域のこうした課題に対して地元企業からの要望が多かった①技術者としての素養、特に異分野の専門知識の習得、②製造技術の基礎知識、③団塊世代のもつ技術・技能の若年技術者への伝承、④自動車産業の根幹をなすものづくり、特に、加工技術における創造性豊かな技術者の育成を本人材育成事業の目標に掲げて事業を実施した。

■実績について：

豊田地域の自動車産業のものづくりを支えている中小企業、並びに異業種交流会から本事業で開講した4つの講座に延べ104名の若手技術者が参加した。受講者からは受講時の質疑応答及び受講アンケートを通して、本講座の位置づけ、目的が理解されたことが分かった。特に、質疑応答の時間が講座の内容の理解を深めることができたことから、今後の仕事に役立つとの意見を頂いた。また、今回の研修では、受講者が大変熱心に受講し、業務以外の欠席もほとんどなく、担当した講師、研修先の企業、研究所の担当者からも驚きの声とともに、地域の中小企業が如何にこのような人材育成を待ち望んでいたか肌で感じられた。このことは、今回のプログラムでは、講義と実験・実習・演習などを融合して実施し、講師の方には企業技術者向けに工夫していただいたことが受講者から好評を得た点であると考えられる。

成果と課題

■成果について：受講者数は、4講座併せて104名（定員60名）で、修了人数は、講座①が28名、講座②が27名、講座③が21名、講座④が16名の合計92名であった。各講座10回の講座でしかも18:00～20:00の時間帯にもかかわらずほとんどの受講者は業務以外の欠席もなく大変熱心に受講していた。この地域の中小企業の人材育成に対する企業側および受講者の熱意が感じられた。また、本育成プログラムは、豊田地区の中小企業の技術者を対象に豊田地域の高専・大学、地元企業、研究機関、日本技術士会、日本弁理士会などの協力で実施した。今回の研修が好評であったのは、本プログラムの特徴である企業研修、技術研修とともに企業から第一線の技術者、技能者を迎えて実施したことも影響していると思われる。

■課題について：課題としては、特に実習に関しての高専側の機器が古く、今回の費用でせめて少額の機器等を購入できればさらに効果が上がったと考えられる。また、高専の授業との関係から日中の開講が難しいため夜間開講となり実習時間が短い点の改良が必要と考える。ただし、受講者に聞いたところ土曜日の開催は、会社等における各種行事のため参加が難しいとのことから、今回の講座でも、土曜日開催の講座④の修了者が少ないのは、業務および各種行事のため参加が難しいことが影響しているものと考えられる。

今後の展開

今回の事業は豊田工業高等専門学校が実施主体となり①豊田地域を中心とした5つの大学・高専（豊田高専、愛知工業大学、愛知学泉大学、中京大学、大同工業大学）、②企業における人材育成に携わっている一線の技術者を派遣頂いた5つの企業（デンソー技研センター、オークマ、小島プレス工業、アイシン・エイ・ダブリュ、福祉工房あいち）、③技術者の素養に関して日本技術士会、日本弁理士会、今回の人材育成事業で重要な位置づけとなっていた④企業内研修として3つの企業・研究所（デンソー高棚製作所、デンソー技研センター、愛知県産業技術研究所）の協力により実施できた。

自動車産業を支える企業・研究機関の絶大な支援により実施できた本事業の評価は行政機関や豊田地域の中小企業の評価も高く、本事業を次年度以降継続的に進める目途が立った。

成果と課題でも述べたが、派遣企業等の事業の関係から①講座の実施時間帯の調整、②一部企業からの要望のあるものづくりに特化した高度な技術・知識の内容について検討する必要があるが、本年度実施した4つの講座内容を継続するとともにこの点も考慮していくこととしている。

受講者・派遣企業の声

受講者は今回作成した事前のパンフレット及びコーディネーターによる事前説明で講座の意図するもの、内容とレベルについてある程度理解が得られていたこともあり、受講者からの講座全体の評価は75%～90%と高く、派遣企業の理解度も高いことから、今回の事業は高く評価できる。特に、スペシャルコースの位置づけで品質管理、設備保全、知的財産権などの専門性を持たせた実務講座の希望も多く、今回の4つの講座内容の中に専門性を持たせた内容を盛り込んだカリキュラムとすることで受講者層を広げることができ、結果的に本講座の受講者を増やすことができた。

（出典 プログラム事業報告（概要版））

資料B-1-②-2

平成16年度公開講座の受講状況(報告)

◎中学生対象講座◎

学科	講座名	定員	応募 人数	受入 許可	欠席・ 辞退 数	受講 者数	充足率 (定員/受講 者)
機械	メカワールド体験講座	18	16	16	2	14	78%
電気・電子	マイコンロボットの製作とロボットコンテスト	30	53	40	0	40	133%
電気・電子	センサ付きのインテリロボットをつくろう(豊橋)	30	17	17	0	17	57%
情報	プログラム(C言語)によるマイコン制御にチャレンジ!	15	30	30	0	30	200%
環境	東海地震!自分だけは大丈夫? GPSで見る地震の起こるメカニズムと振動実験	20	14	14	2	12	60%
建築	パソコンで夢いっぱいの空間をつくろう	20	15	15	1	14	70%
6講座計		133	145	132	5	127	95%

※備考:応募/定員の率=109%

◎社会人対象講座◎

学科	講座名	定員	応募 人数	受入 許可	欠席・ 辞退 数	受講 者数	充足率 (定員/受講 者)
一般	戦国軍記『武功夜話』を読む(1)(2)	20	43	43	4	39	195%
マル情報	パソコン(Windows/Linux)のインストールとネットワークの構築 (1)(2)	15	14	14	2	12	80%
建築	揺らしてわかる木造住宅の耐震診断法(1)(2)	20	28	28	0	28	140%
3講座計		55	85	85	6	79	144%

※備考:応募/定員の率=155%

-全講座合計-

学科	講座名	定員	応募 人数	受入 許可	欠席・ 辞退 数	受講 者数	充足率 (定員/受講 者)
9講座計	-	188	230	217	11	206	110%

※備考:応募/定員の率=122%

平成17年度公開講座(地域連携講座含む)の実施状況

★一般対象講座 (※①及び②は中学生以上であれば受講可、③は満18歳以上)

(1)豊田高専で実施

学科	会場	講座名	募集人数	申込人数	受入許可	欠席・辞退	受講者数	充足率 (受講/募集)	備考	
									開催日	受講料
一般		絵解きで習う英会話 ※①	30	5	5	0	5	17%	8/22(月) -26(金)	※7,200 ※中学2,000
電気・電子	豊田高専	ハリーポッター第6巻は英語で読もう! めざせ100万語英文多読入門 ※②	10	15	15	0	15	150%	7/26(火)	※8,090 ※中学2,890
マルチメディア		パソコン(Windows)ネットワーク構築とウイルス対策 ※③	15	11	11	1	10	67%	8/27(土) 9/3(土)	8,200
3講座計			55	31	31	1	30	55%	中学生は1講座1,000円+教材費、中学生以外は機構の規則を適用+教材費	

※備考:申込/募集の率= **56%**

(2)T-FACEで実施 →豊田市との共催(地域連携講座)

学科	会場	講座名	募集人数	申込人数	受入許可	欠席・辞退	受講者数	充足率 (受講/募集)	備考	
									開催日	受講料
一般		戦国軍記『武功夜話』を読む -木下藤吉郎の登場- 一稻生合戦における柴田勝家-	25	38	38	2	36	144%	10/16(日) 、23(日)	2,000
電気・電子	T-FACE	ハリーポッター第6巻は英語で読もう! めざせ100万語英文多読体験	20	86	33	1	32	160%	10/15(土) 、22(土)	2,000
建築		木造住宅の耐震安全性の真実 ~わかっていること・未だ分からないこと~	20	募集中					12/3(土) 、10(土)	2,000
実施済2講座計			45	124	71	3	68	151%	料金は豊田市の取り決め(共催1講座1日1,000円以下)を適用した。	
3講座計			65	-	-	-	-	-		

※備考:実施2講座の申込/募集の率= **276%**

★中学生対象講座

学科	会場	講座名	募集人数	申込人数	受入許可	欠席・辞退	受講者数	充足率 (受講/募集)	備考	
									開催日	受講料
機械	豊田高専	メカワールド体験講座	18	18	18	2	16	89%	7/25(月) -26(火)	1,000
電気・電子	豊田高専	マイコンロボットの製作とロボットコンテスト	30	42	42	2	40	133%	7/26(火) -27(水)	1,000
	豊橋	センサつきのインテリロボットをつくらう【豊橋商工会議所】	20	27	27	0	27	135%	7/28(木)	3,200
情報		プログラム(C言語)によるロボット制御にチャレンジ!	15	24	24	4	20	133%	8/3(水) -4(木)	1,000
環境	豊田高専	ブリッジコンテスト(橋の模型を作ってみよう)	20	13	13	0	13	65%	8/3(水)	1,000
建築		パソコンで夢の空間を創ろう	15	17	17	3	14	93%	7/28(木) -29(金)	1,000
6講座計			118	141	141	11	130	110%	1講座1,000円に教材費加算	

※備考:申込/募集の率= **119%**

ー全講座合計ー

	募集人数	申込人数	受入許可	欠席・辞退	受講者数	充足率 (受講/募集)
実施済11講座計	218	296	243	15	228	105%
12講座計	238	-	-	-	-	-

※備考:実施11講座の申込/募集の率= **136%**

平成18年度公開講座(地域連携講座含む)の実施状況

★一般対象講座 (※①は中学生以上であれば受講可、②は満18歳以上)

(1)豊田高専で実施

学科	会場	講座名	募集 人数	申込 人数	受入 許可	欠席・ 辞退・ 落選	受講 者数	充足率 (受講/募集)	備考	
									開催日	受講料
電気・電子		ハリーポッター第7巻は英語で読もう！ めざせ100万語英文多読入門 ※①	10	8	8	1	7	70%	8/7(月) -9(水)	※3,630 ※中学1,630
マルチメディア		Windowsネットワーク構築とセキュリティ対策 (初・中級編) ※②	10	17	14	3	14	140%	8/26(土) 9/2(土)	3,764
3講座計			20	25	22	4	21	105%	中学生は1講座1,000円+教材費、 中学生以外は1日1,000円+教材費	

※備考:申込/募集の率=125%

(2)豊田市との共催(地域連携講座)

学科	会場	講座名	募集 人数	申込 人数	受入 許可	欠席・ 辞退・ 落選	受講 者数	充足率 (受講/募集)	備考	
									開催日	受講料
一般	T-	近世史料に見る山内一豊 一内助の功一 戦国軍記『武功夜話』における山内一豊 一山内猪右衛門のこと一	25	18	18	1	17	68%	8/26(土)、 27(日)	2000 中学生1,000
一般	FACE	絵解きで習う英会話	20	29	29	2	27	135%	8/28(月)、30(水)、 31(木)、9/3(日)	5,000 中学生2,000
電気・電子	豊田市 中央 図書館	ハリーポッター第7巻は英語で読もう！ めざせ100万語英文多読体験	20	30	30	4	26	130%	10/21(土)、 28(土)	2,630 中学生1,630
実施済2講座計			45	47	47	3	44	98%	料金は豊田市の取り決め(共 催1講座1日1,000円以下)を適 用した。	
3講座計			65	-	-	-	-	-		

※備考:実施2講座の申込/募集の率=104%

★中学生対象講座

学科	会場	講座名	募集 人数	申込 人数	受入 許可	欠席・ 辞退・ 落選	受講 者数	充足率 (受講/募集)	備考	
									開催日	受講料
機械	豊田 高専	メカワールド体験講座	18	19	18	1	18	100%	8/1(火) -2(水)	1,000
電気・電子		マイコンロボットの製作とロボットコンテスト	30	40	40	0	40	133%	7/25(火) -26(水)	1,000
	豊橋	センサつきのインテリロボットをつくらう【豊橋商工会議所】	20	17	17	1	16	80%	7/28(金)	3,200
情報		プログラム(C言語)によるマイコン制御にチャレンジ!	15	36	36	0	36	240%	7/27(木) -28(金)	1,000
環境	豊田 高専	わかりやすいコンクリートの話	20	15	15	0	15	75%	7/31(月)	1,000
建築		パソコンで夢の空間を創ろう! 一3D描画ソフトで挑戦一	15	2	2	0	2	13%	8/3(木) -4(金)	1,000
6講座計			118	129	128	2	127	108%	1講座1,000円に教材費加算	

※備考:申込/募集の率=109%

ー全講座合計ー

募集 人数	申込 人数	受入 許可	欠席・ 辞退・ 落選	受講 者数	充足率 (受講/募集)
実施済11講座計	201	197	9	192	105%
12講座計	-	-	-	-	-

※備考:実施11講座の申込/募集の率=110%

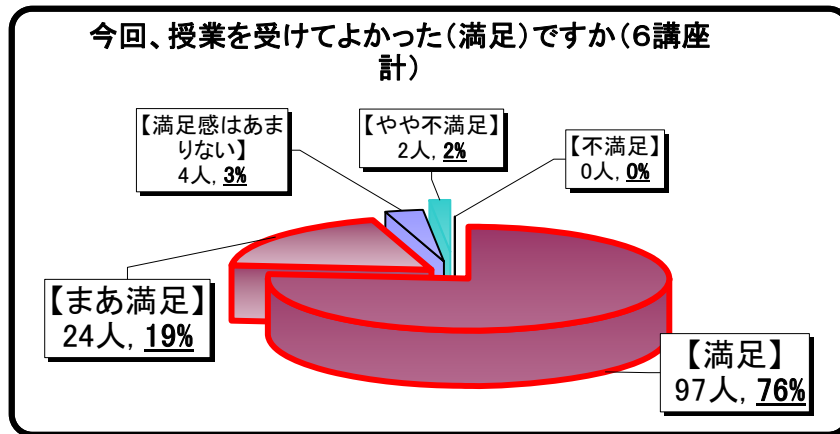
(出典 生涯学習委員会資料)

平成16年度公開講座のアンケート結果

(中学生対象講座)

【まとめ】 今回、授業を受けてみてよかった(満足)ですか

	機械	電気・電子 (出前)	電気・電子	情報	環境	建築 (夢空間)	合計
よかった(満足)	9	7	36	22	11	12	97
まあまあよかった(まあ満足)	4	8	2	7	1	2	24
どちらともいえなかった(満足感はない)	0	1	2	1	0	0	4
あまりよくなかった(やや不満足)	1	1	0	0	0	0	2
よくなかった(不満足)	0	0	0	0	0	0	0
	14	17	40	30	12	14	127

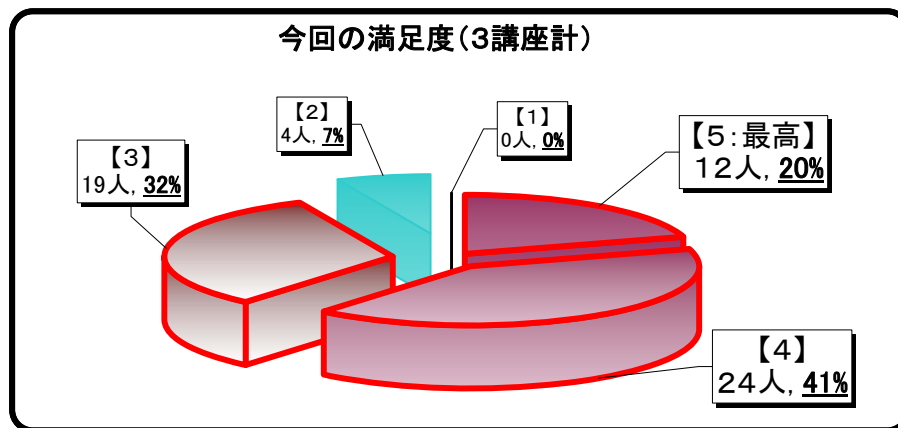


★満足度★ 121/127人 95%

(社会人対象講座)

【まとめ】 今回、講義を終えて、貴方自身にとってはどのくらいの満足度が得られましたか。最高が5、最低が1として表現してください。

	一般	建築 (耐震)	マル情				合計
5(最高)	9	1	2				12
4	11	9	4				24
3	7	9	3				19
2	0	3	1				4
1(最低)	0	0	0				0
	27	22	10				59



★満足度★ 3~5レベル対象 55/59人 93%

平成17年度公開講座の満足度調査(総括)

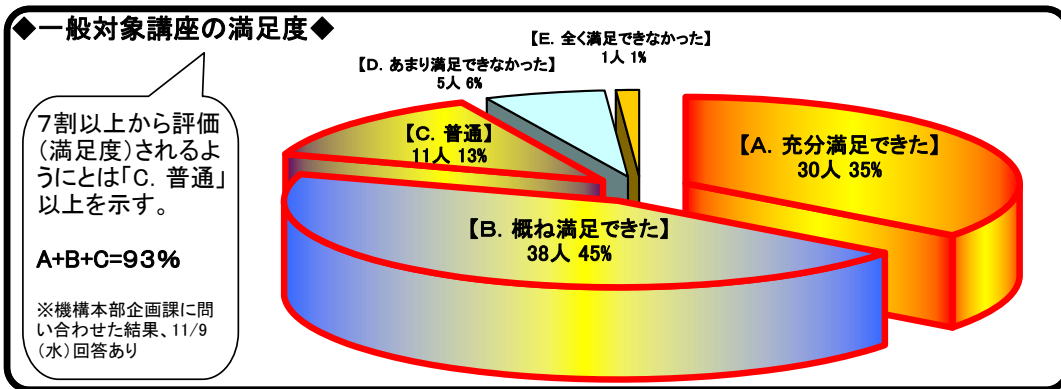
資料2

【一般対象講座】今回、講義を終えて、どのくらい満足度が得られましたか？

評価の区分 (基本的に5段階とし、C.以上が評価を得たと判断—機構本部企画課)	豊田高专で実施				T-FACEで実施(地域連携講座)				計
	ハリー入門 (電気)	絵解き (一般)	パソコン(Win) (マルチ)	小計	ハリー体験 (電気)	戦国軍記 (一般)	木造住宅 (建築)	小計	
A. 充分満足できた	4	2	3	9	14	7		21	30
B. 概ね満足できた	10	3	2	15	10	13		23	38
C. 普通	1		4	5	1	5		6	11
D. あまり満足できなかった			1	1		4		4	5
E. 全く満足できなかった				0		1		1	1
計	15	5	10	30	25	30	0	55	85

※ 無回答1

※中学生対象講座とは異なり、中学生に限定した講座ではない。マルチの講座(パソコン(Win))については満18歳以上

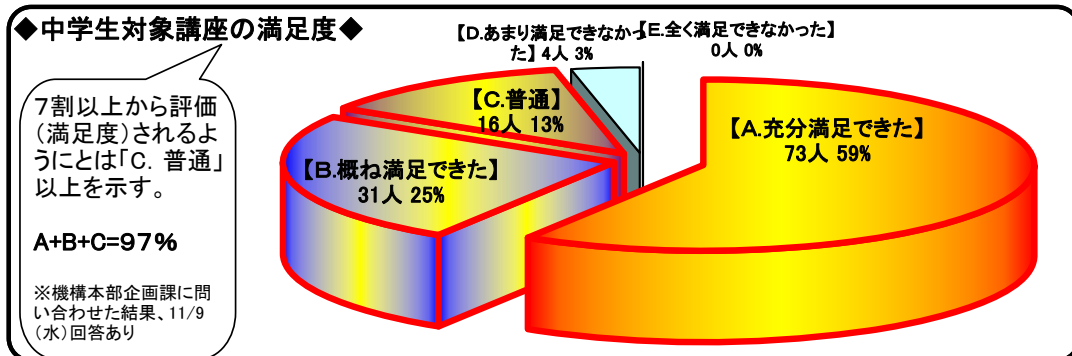


【中学生対象】今回、授業を受けてよかった(満足)ですか？

評価の区分 (基本的に5段階とし、C.以上が評価を得たと判断—機構本部企画課)	メカ (機械)	マイコンロボット (電気)	パソコンで夢 (建築)	ブリッジコンテスト (環境)	プログラム(C言語) (情報)	センサつき (電気)	計
A. 充分満足できた	11	17	11	10	15	9	73
B. 概ね満足できた	5	8	2	3	2	11	31
C. 普通		10	1			5	16
D. あまり満足できなかった		3				1	4
E. 全く満足できなかった							0
計	16	38	14	13	17	26	124

※中学生に限定した講座である。

※実際のアンケート(中学生宛)は機構の上記表現に更に中学生用の表現を併記(例：B.まあまあよかった)



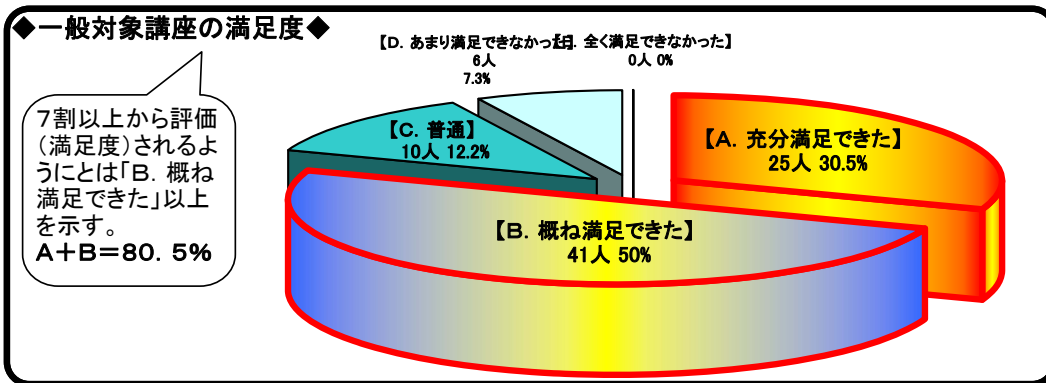
平成18年度公開講座の満足度調査(総括)

(質問) 講義を終えて、満足できましたか？

【一般対象講座】

評価の区分 (基本的に5段階とし、B.以上が評価を得たと判断される)	公開講座			地域連携講座			小計	計
	ハリー入門 (電気)	Windows (マルチ)	小計	戦国軍記 (一般)	絵解き (一般)	ハリー体験 (電気)		
A. 充分満足できた	2	4	6	2	6	11	19	25
B. 概ね満足できた	3	8	11	9	9	12	30	41
C. 普通(どちらとも言えない)		1	1	2	4	3	9	10
D. あまり満足できなかった			0	2	4		6	6
E. 全く満足できなかった			0				0	0
計	5	13	18	15	23	26	64	82

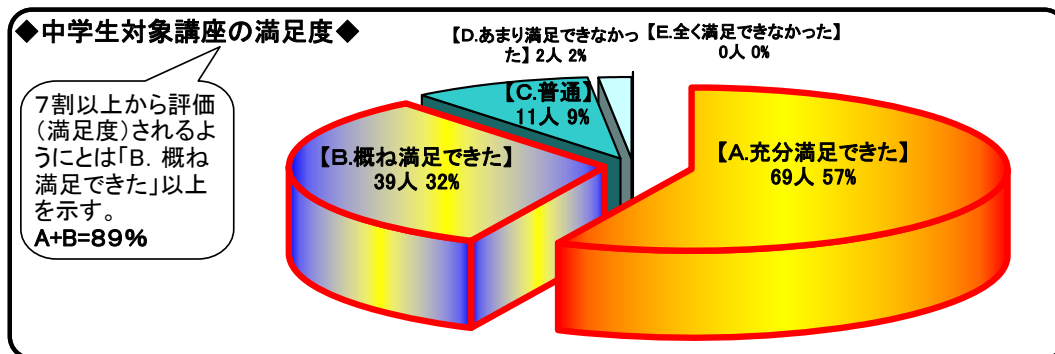
※中学生対象講座とは異なり、中学生に限定した講座ではない。マルチの講座(Windows)については満18歳以上



【中学生対象】

評価の区分 (基本的に5段階とし、B.以上が評価を得たと判断される)	メカ (機械)	マイコンロボット (電気)	パソコンで夢 (建築)	コンクリート (環境)	プログラム(C言語) (情報)	センサつき (電気)	計
A. 充分満足できた	8	26	1	10	17	7	69
B. 概ね満足できた	8	11	1	3	12	4	39
C. 普通(どちらとも言えない)	2	2			2	3	11
D. あまり満足できなかった					1	1	2
E. 全く満足できなかった							0
計	18	39	2	15	32	15	121

※中学生に限定した講座である。



(出典 生涯学習委員会資料)

豊田工業高等専門学校生涯学習委員会規程

制 定 平成12年7月1日
最終改正 平成17年2月22日

(設置)

第1条 豊田工業高等専門学校(以下「本校」という。)は、生涯学習事業を通じて、本校が有している専門的かつ総合的な教育機能を広く開放し、生活上あるいは職業上の専門的な知識及び技術を習得する生涯学習の機会を地域社会へ提供するとともに、本校の教育活動の活性化に寄与するため、豊田工業高等専門学校生涯学習委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じ、次に掲げる事項を審議する。

- 一 公開講座の企画及び運営に関すること
- 二 施設開放(図書館に関するものを除く。)に関すること
- 三 出前講座及び出前授業に関すること
- 四 地域の学習需要の調査及び分析に関すること
- 五 その他生涯学習に関すること

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもつて組織する。

- 一 図書館長、マルチメディア情報教育センター長、技術部長、地域共同テクノセンター長
 - 二 各学科から選出された教員 各1名
 - 三 庶務課長、会計課長、学生課長
 - 四 研究協力係長
 - 五 その他校長が適当と認めた者
- 2 前項第2号及び第5号の委員の任期は、1年とする。ただし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員を生じたときは、その都度補充することができる。この場合における委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第4条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、校長が指名する。
- 3 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長に事故が生じた場合は、委員長が指名した委員がその職務を代行する。
- 5 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を出席させて説明又は意見を求めることができる。

(庶務)

第5条 委員会の庶務は、庶務課において処理する。

- 2 庶務は、議案を整理し、会務を処理する。

(出典 規則集)

(分析結果とその根拠理由)

「正規課程の学生以外に対する教育サービス」の享受者のうち、地域企業との連携を目指した「豊田地域の自動車部品製造における中小企業の若手技術者育成プログラム」においては、4講座(各講座定員20名)併せて受講者97名、修了者92名を数え、事業の成果が上げられた。また、アンケート結果からも75～90%の肯定的評価が与えられた。一方、公開講座の参加者については、その充足率は過去3年間にわたり100%を超えているとともに、アンケート調査の結果、5段階評定の「4」

以上の評定を与える参加者が概ね 80%以上であり高い満足度を与えていると考えられる。出前授業については、受講者に感想を求める程度であるが、訪問先の事情も考慮しつつアンケート調査を行うかどうか検討中である。参加者数や満足度調査からは、活動の成果が上がっていると判断される。生涯学習委員会及び庶務課研究協力係を中心とした改善のためのシステムが整備されており、そこでの報告や協議は公開講座担当者や出前授業担当教員に伝達され、次年度の公開講座に反映されるようになってきている。

以上のことから、改善のためのシステムが整備され、機能していると判断される。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・経済産業省の「高等専門学校等を活用した中小企業人材育成事業」に取り組んだ。
- ・公開講座を毎年 10 講座以上開講し、充足率は高く、受講者の満足度も高い。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 選択的評価事項Bの自己評価の概要

本校では「小中学生を対象とした教育サービス」、「公開講座」、「地域企業との連携」及び「研究生、聴講生及び科目等履修生の受入」を正規課程の学生以外に対する教育サービスとして計画的に実施している。これらの実施状況は概ね良好である。特に詳細なアンケート調査を行った公開講座では、充足率は平均100%を超えており、またアンケート集計結果からも高い満足度が示されている。こうした実施状況やアンケート結果等については、生涯学習委員会において報告され、同委員会及び庶務課研究協力係を中心として次年度以降の計画に反映されるようになっており、改善システムが機能している。

(4) 目的の達成状況の判断

目的の達成状況は良好である。